

YAYOI

自動壁紙糊付機械

LEX TAR due

スーパーナイフスリッター搭載

取扱説明書

安全のためご使用前に必ずお読み下さい



このたびは、当社壁紙自動糊付機械『LEX TAR due』をお買い上げいただき誠にありがとうございます。

ご使用に際し、事前にこの取扱説明書をよくお読みいただき、十分ご理解いただいた上でご使用ください。ご不明な箇所がありましたら、巻末に記載しました当社までお問い合わせ願います。

なお、この取扱説明書はいつもお手元に保管され、ご利用いただきますようお願い申し上げます。

 ヤヨイ化学工業株式会社

お使いになる前に

●本機をご使用になる前に、下記の梱包内容がすべて揃っていることをご確認ください。

LEXTAR due

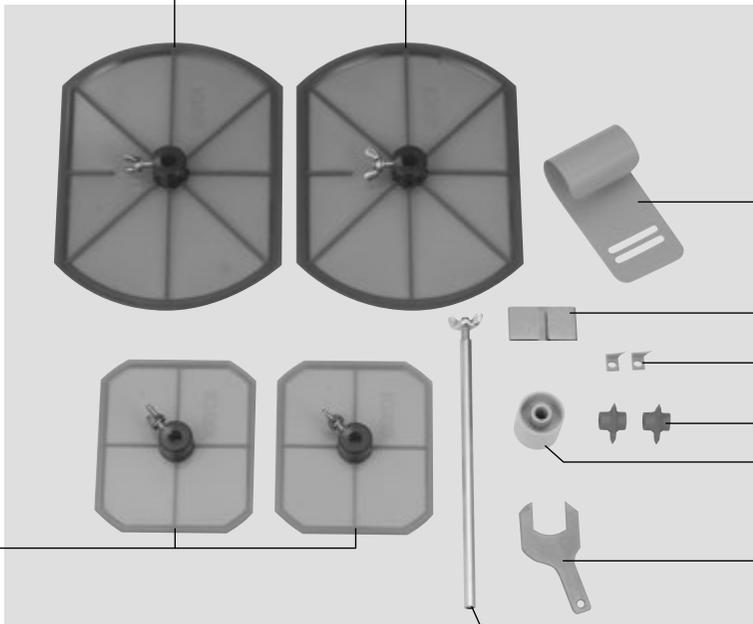
商品番号 400-450 (LEXTAR due シルバーバック)
400-460 (LEXTAR due パッションピンク)

- 1 糊付機械・本体
- 2 スーパーナイフスリッター
- 3 コントローラー
- 4 クロス芯棒
- 5 NEWテンションバー1,2 (計2本)
- 6 取扱説明書 (本書)・付属品
- 7 保証書

[付属品]

クロス側板
2枚

テープ側板
2枚



[取扱説明書]

テープナビゲーター
(404-953)

テープガイド (50mm)

ツメR 2ケ

ツメF 2ケ

テープ芯

糊厚調整工具
(409-846)

ワンタッチテープ芯棒

目次

1	取扱い上のご注意	4
2	各部の名称	7
3	機械のセット	
	脚・テンションバー	11
	本体・コントローラー	12
	スリッター	13
4	作業準備	
	クロス原反のセット	14
	カットテープのセット	15
	糊の供給・糊厚調整	16
	ツメ位置の調整・裁断幅の調整	17
5	糊付作業手順	
	クロスの通し方	18
	NEW テンションシステム・壁紙裏面検尺機構	19
	糊付け作業	20
6	コントローラーの操作方法	
	操作スイッチ	21
	操作パネル	22
	操作方法 通常糊付画面	23
	詳細糊付画面	24
	残量設定、トータル・補正	25
	履歴確認、端末検知機能	26
	エラー表示	27
7	本体部の掃除・手入れ	28
8	機械の調整・点検	30
9	スリッター刃物の交換方法	31
10	故障だと思われる前に	33
11	別売オプション	35
12	仕様	

自動壁紙糊付機械をご使用いただくには、正しい取扱いと定期的な保守・点検が不可欠です。本文をよくお読みいただき、十分にご理解された後、糊付作業ならびに保守作業を行ってください。

この取扱説明書では、誤った取扱いをしたときにおよぼす危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。

-  **警告** …………… この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人身事故につながる恐れのある内容を示しています。
-  **注意** …………… この表示を無視して、誤った取扱いをすると、機械の破損・故障につながる恐れのある内容を示しています。
-  **メモ** …………… これを知っておくと便利という内容を示しています。

警告

-  **プラグを抜く**
煙が出ている、変な臭いや異音がする等の異常状態のまま使用すると、火災・感電等の原因となります。すぐにコントローラーの電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
-  **プラグを抜く**
作業終了後は、コントローラーの電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
-  **分解禁止**
コントローラーを分解したり、改造したりしないでください。感電・故障等の原因となります。内部の点検・修理は、当社各営業所に依頼してください。
-  **水ぬれ禁止**
コントローラーに水が入ったり、濡らさないようにご注意ください。火災・感電・故障等の原因となります。屋外での使用や機械の洗浄時等は、特にご注意ください。
-  **禁止**
電源コードの上に重いものを載せたり、コードが機械の下敷きにならないようにしてください。また、電源コードが引っ張られないようにしてください。コードに傷がついて火災・感電等の原因となります。
-  **警告**
電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線等）、当社各営業所に交換修理を依頼してください。そのまま使用すると、火災・感電等の原因となります。
-  **禁止**
電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。コードが破損して火災・感電等の原因となります。
-  **警告**
糊付機械作業中は、ローラーやギヤ等の間に指をはさまないように十分注意してください。
-  **電源OFF**
コントローラーは機械本体に着脱できるようになっています。着脱の際、必ず先に電源を切ってください。誤って動き出すとけがをする恐れがあります。
-  **外せ**
糊付機械を洗浄するときは、コントローラーとスリッターを取り外して行ってください。ローラーの間に手を巻き込んだり、スリッターの刃物で手を切ったりする等、思わぬ事故を未然に防ぎます。
-  **外せ**
糊付機械を洗浄するときは、オクリダシローラーを取り外して行ってください。ドクターローラーとオクリダシローラーの間に手を巻き込む事故を未然に防ぎます。



警告

スリッター運転中には絶対に刃物に触れないでください。手を切ります。また、スリッター停止中も十分注意してください。



分解禁止

スリッターのカッターボックスを分解しないでください。手を切ります。



禁止

コントローラーの電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電等の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。



禁止

濡れた手でコントローラーの電源プラグを抜き差ししないでください。感電等の原因となります。また、必ずアースをとってご使用ください。



禁止

機械の上に重いものを置かないでください。機械が変形・破損したり、落下してけがの原因となることがあります。



禁止

ぐらついた台の上や傾いた所等、不安定な場所に置かないでください。機械の誤作動や、倒れたりしてけがの原因となることがあります。必ず水平な場所で使用してください。



警告

脚ロックレバーを解除し、脚を外に開くときや閉じるときは、手をはさむ恐れがありますので十分注意して行ってください。



警告

脚を開き組立てるときは、脚が確実にロックされていることを確認してください。ロックの状態が悪い場合、作業中、脚が倒れて、けがをする恐れがあります。また、脚を内側に折りたたみ収納する際、脚が確実にロックされていることを確認してください。ロック状態が不十分だと運搬時に脚が開き、足をけがする恐れがあります。ロック状態が悪い場合は、部品交換ないし修理をご用命ください。

注意



注意

精密機械ですから落としたり、ぶつけたり、極端な衝撃を加えないでください。



注意

電圧低下、電圧変動によりコントローラーが正常に作動しない場合がありますのでご注意ください。



ロック

コントローラー、スリッターは、本体から取り外して別に運搬してください。運搬中に機械が落下して破損する恐れがあります。機械本体と脚部を同時運搬される際は、機械本体・上下フレームのパチン錠、本体と脚のパチン錠を必ず掛けてください。また、糊タンクロックを「閉」の位置にしてください。



禁止

窓を閉めきった自動車の中や直射日光があたる場所等、異常に温度が高くなる場所や、湿気の多い場所に長時間放置しないでください。機械の変形・故障等の原因となることがあります。



禁止

掃除をするときはワイヤーブラシなど、かたいものでこすらないでください。ローラー等の表面に局部的な力を加えると破損する恐れがあります。



注意

液晶表示は、使用温度範囲(0~40℃)を超えると、表示が見えにくくなる場合があります。また、低温(0℃以下)になると表示切替りのレスポンスが遅くなる傾向があります。低温時は予め10分程度、通電後、糊付作業を行ってください。



注意

液晶表示は、見る方向によって表示が見えにくくなる場合があります。



注意

使用後はローラー、糊タンクは水洗いし、ステータ脚等、糊のついたところは、水を含ませた雑巾等で拭き取った後、乾いた雑巾で乾拭きしてください。洗浄、拭き取りが十分でないとう品の劣化や変色に至る場合があります。



注意

ドクターローラー、糊ローラーの水洗いは厳密に行ってください。乾燥後、薄い糊の皮膜が残っているだけでも、糊付けのムラ、かすれの原因となることがあります。



注意

オクリダシローラー、検尺ローラーに糊がついたときは必ず雑巾などできれいに拭き取ってください。糊がついた状態で放置するとひび割れすることがあります。



禁止

機械に糊を入れたまま長時間放置しないでください。特に機械が新品の使いはじめの時期は、必ず使用後に機械を洗浄してください。糊ローラー、ナラシローラー、糊上げローラー、オサエローラー、ドライブローラーが変色(腐食)することがあります。ローラーの変色は高温になるほど進行が早くなりますので、糊を付けたまま自動車への保管は特に気を付けてください。

注意



注意

経時により、オクリダシローラーや検尺ローラーが変色（黄変等）する場合があります。ローラー間のグリップ力を保持していれば、糊付性能に影響はありません。グリップ力が低下した際は、ピンチ圧を調整したり、場合によってはローラーの交換が必要な旨、予めご了承ください。



注意

『LEXTAR due』は、当社ルーアマイルド（及びピュアラ）6.5～7.5割希釈で均一な糊付けができるよう設計しております。糊の種類、粘性、使用条件等によって、糊付き状態にバラツキが発生します。レギュレーターに、ルーアマイルド（又はピュアラ）を入れ、規定線までの水の量で希釈すると6.5～7.5割希釈のルーアマイルド（ピュアラ）溶液がつけれます。



注意

糊タンク内に糊を入れたまま一晩放置すると、糊の流動性が悪くなり糊切れを起こす場合があります。ご使用前に糊タンク内の糊をへらで混ぜるか、一旦糊をレギュレーターに戻して再攪拌してください。



注意

製品出荷時、『LEXTAR due』の糊厚は、糊ローラーとドクターローラーの間隔量で左右同じになるように調整しています。しかしながら、実際に壁紙に糊を付けた状態では、左右の糊付量に若干違いが発生する場合があります。その場合、糊付き状態を確認しながら、本書P16・P30を参考に調整してください。



注意

本体部のコントローラー取付面（軸受カバー2）にシール等貼付しないでください。本製品は、コントローラーからの信号を非接触（コードレス）にて本体へ送信しています。シール貼付により信号伝達が阻害され、読み取り不良を発生させる場合がありますのでご注意ください。



注意

壁紙や接着剤等の材料状況、あるいは高温時、低温時等、ご使用環境条件等によっては、『LEXTAR due』の糊付性能、スリッター裁断性能、採寸性能等が十分に発揮できない場合があります。このような場合、予め試験使用しご確認された後、本使用してください。



注意

壁紙材料の種類により壁紙を機械にセットした状態で放置すると、気中の湿気により巾方向に伸びる材料があります。このような材料を、スリッター裁断後そのままの状態では、湿気により裁断幅が伸び、放置後にスリッター裁断した裁断巾と巾寸法が異なるため、切断面に段差が生じ美しい突き付け施工ができない場合があります。このような場合、放置時間を抑えるなど、予め留意願います。



注意

スリッターでクロスの耳を裁断時、クロスのセット方法が悪いとまっすぐ切れなかったり、切れ味が悪い場合があります。クロス原反の位置、スリッターのカッター位置を左右同じにセットし、クロスは左右たるみが出ないよう原反を抑えながら機械に引き込んでください。



注意

スリッターでクロスの耳を裁断時、クロス原反の巻き状態が悪いものや、つぶれた状態の原反等では、まっすぐ切れない場合や耳の端部がつまる場合があります。巻きの悪いものは、耳をそろえ直してご使用ください。つぶれた原反のものは、巻き直すか矯正してからご使用ください。



注意

カットテープご使用の際、テープが蛇行、シワになる場合があります。テープはまっすぐに裁断されているものをご使用ください。また、テープ側板のあて方でテープにかかるテンションが調整できます。適度なテンションでご使用ください。



注意

脚部を折りたたむ場合は、テープ側板が脚部に干渉しないよう、テープ側板を縦方向にして下さい。又、カットテープの巻きが太いと脚部を折りたたむ際、テープが脚部に干渉することがありますので、予め取り外しておいて下さい。無理に脚部を折りたたむとテープ側板やテープ取付板が破損します。



注意

壁紙や接着剤の種類、状況によっては、十分な性能が発揮できない場合があります。このような場合、摩耗した部品の迅速な交換が必要な旨、予めご了承ください。



注意

壁紙材料の種類（巾広の壁紙等）によっては、『LEXTAR due』による糊付けやスリッター裁断ができない場合があります。事前に壁紙の巾寸法、有効巾、リピート等をご確認願います。



注意

経時のご使用により『LEXTAR due』の構成部品が摩耗し、十分な性能が発揮できない場合、当社営業所宛お問い合わせいただき、部品交換ないしオーバーホールをご用命ください。



注意

『LEXTAR due』では、予め消耗を想定した部品があります。それらの部品につきましては、保証期間内であっても無償での部品取り替えはできませんので予めご了承ください。



注意

修理が必要な場合、施工現場にて修理するには修理内容に限度があります。厳密に修理するには、一旦当社へ機械を戻し、詳細な点検調整が必要なことを予めご了承ください。



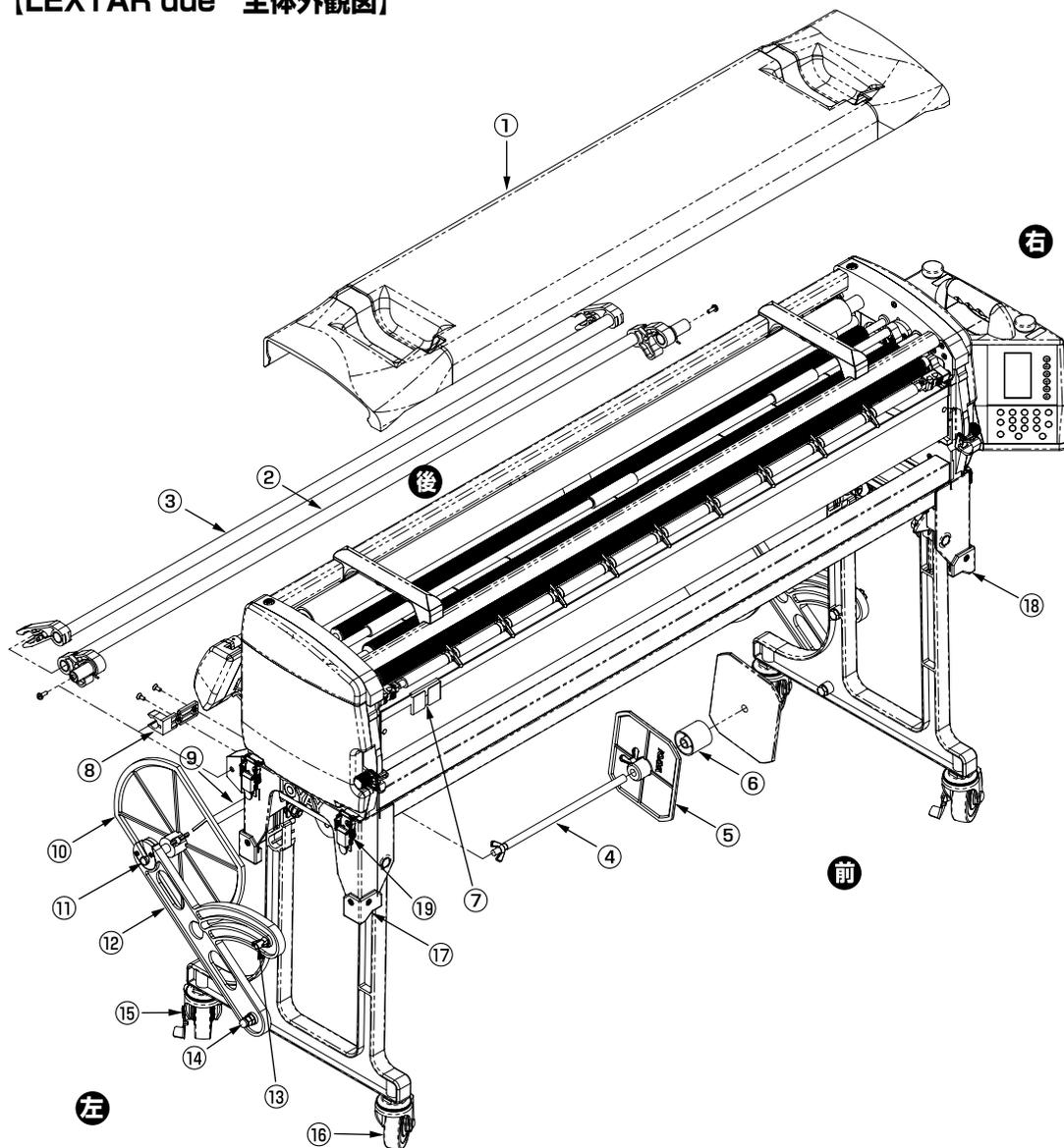
注意

『LEXTAR due』をご使用の際、取扱説明書、保証書をよくお読みいただき、ご理解された上でご使用ください。本機の保証期間は6ヶ月ですが、取扱い等に問題があった場合、保障できかねる場合がありますので予めご了承ください。

各部の名称

2

[LEX TAR due 全体外観図]

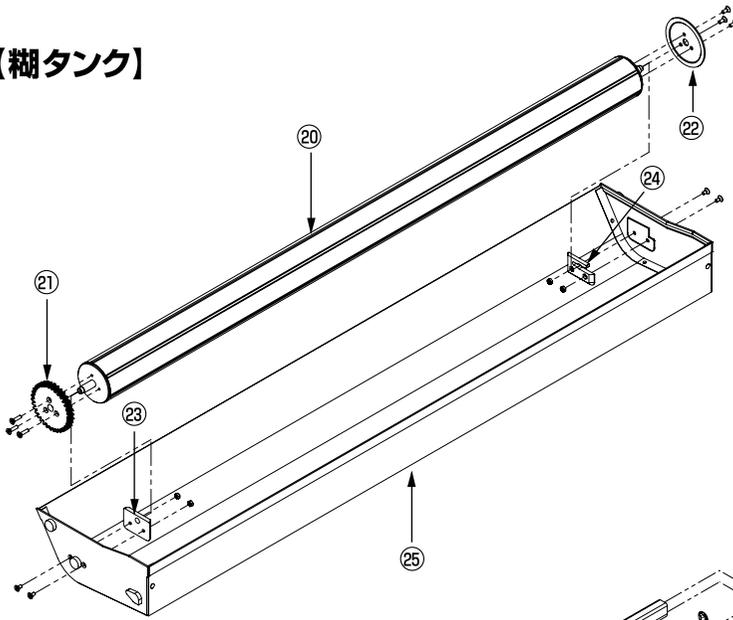


【全体外観図】

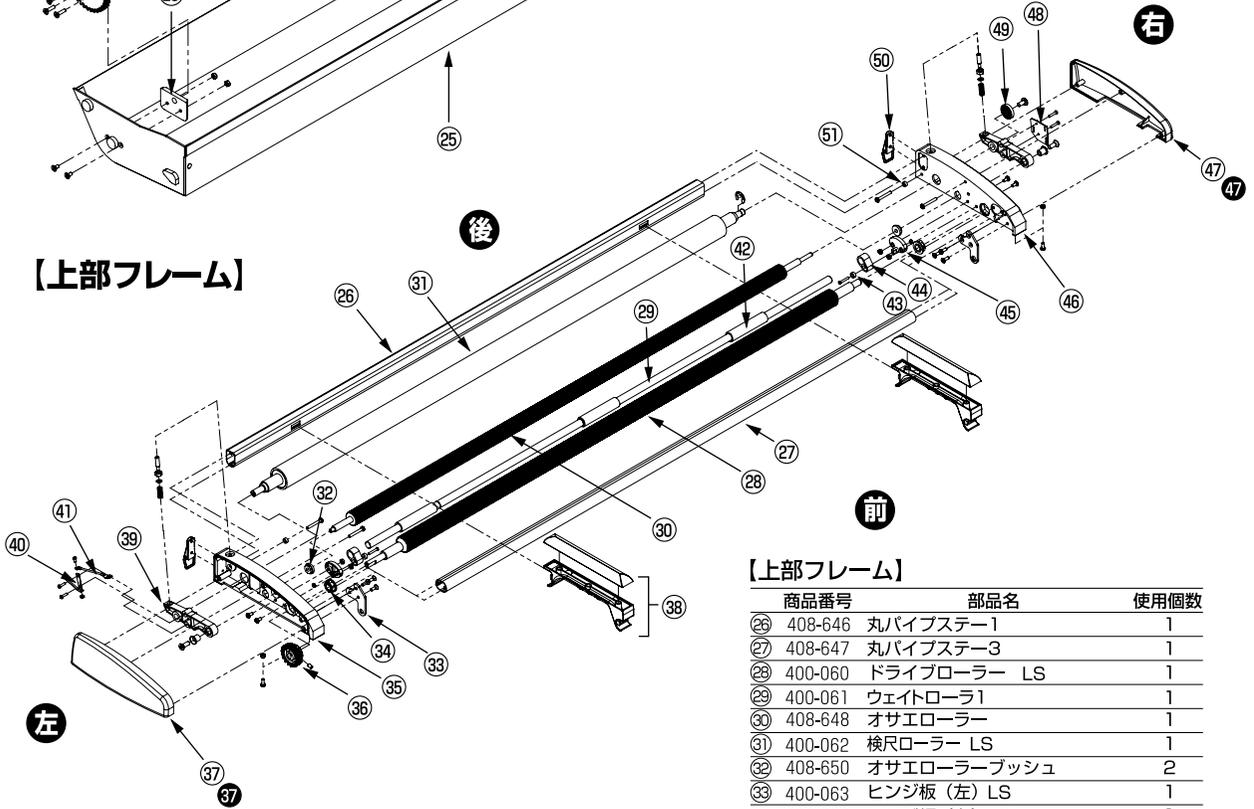
商品番号	部品名	使用個数
① 400-050	本体カバー LS	1
② 400-051	NEWテンションバー1 LS	1
③ 408-002	NEWテンションバー2	1
④ 408-674	ワンタッチテープ芯棒 (蝶ネジ付)	1
⑤ 400-151	NEWテープ側板SP (蝶ネジ付)	2
⑥ 409-708	テープ芯	1
⑦ 408-641	テープガイド 50mm	1
⑧ 400-052	テンションバーロック LS	2
⑨ 409-712	クロス芯棒	1
⑩ 404-988	クロス側板W (蝶ネジ付)	2

商品番号	部品名	使用個数
⑪ 408-604	クロス受け摺動材(ネジ側)(ブラック)	2
408-605	クロス受け摺動材(ナット側)(ブラック)	2
⑫ 409-716	クロス受けブラケット	2
⑬ 404-846	M8 蝶ネジ	2
⑭ 404-848	M8 袋ナット	2
⑮ 408-642	キャスターC (ストッパー有)	2
⑯ 408-643	キャスターC (ストッパー無)	2
⑰ 408-606	脚キャップC(左前・右後) (ブラック)	2
⑱ 408-607	脚キャップC(右前・左後) (ブラック)	2
⑲ 400-053	パチン錠	4

【糊タンク】



【上部フレーム】



【上部フレーム】

商品番号	部品名	使用個数
26	408-646 丸パイプステー1	1
27	408-647 丸パイプステー3	1
28	400-060 ドライブローラー LS	1
29	400-061 ウェイトローラ1	1
30	408-648 オサエローラー	1
31	400-062 検尺ローラー LS	1
32	408-650 オサエローラープッシュ	2
33	400-063 ヒンジ板 (左) LS	1
	400-064 ヒンジ板 (右) LS	1
34	408-653 ドライブローラープッシュ	2
35	400-014 軸受板3 (シルバー)	1
36	409-741 ドライブギヤ	1
37	400-015 軸受カバー-3 (シルバーバック)	1
37	400-034 軸受カバー-3 (パッションピンク)	1
38	400-016 取手 (シルバー)	2
39	409-743 検尺ブラケット	2
40	409-744 静電防止金具	1
41	409-745 静電防止金具用電線	1
42	400-065 ウェイトローラ2	3
43	400-066 ウェイトローラ止具	2
44	400-067 ウェイトローラブラケット1	2
45	400-068 ウェイトローラブラケット2	2
46	400-017 軸受板4 (シルバー)	1
47	400-018 軸受カバー-4 (シルバー)	1
47	400-035 軸受カバー-4 (パッションピンク)	1
48	400-069 センサーケーブル LS	1
49	409-749 マグネットフィン1	1
50	409-751 パチン錠 (本体)	2
51	400-070 スリッター止具	2

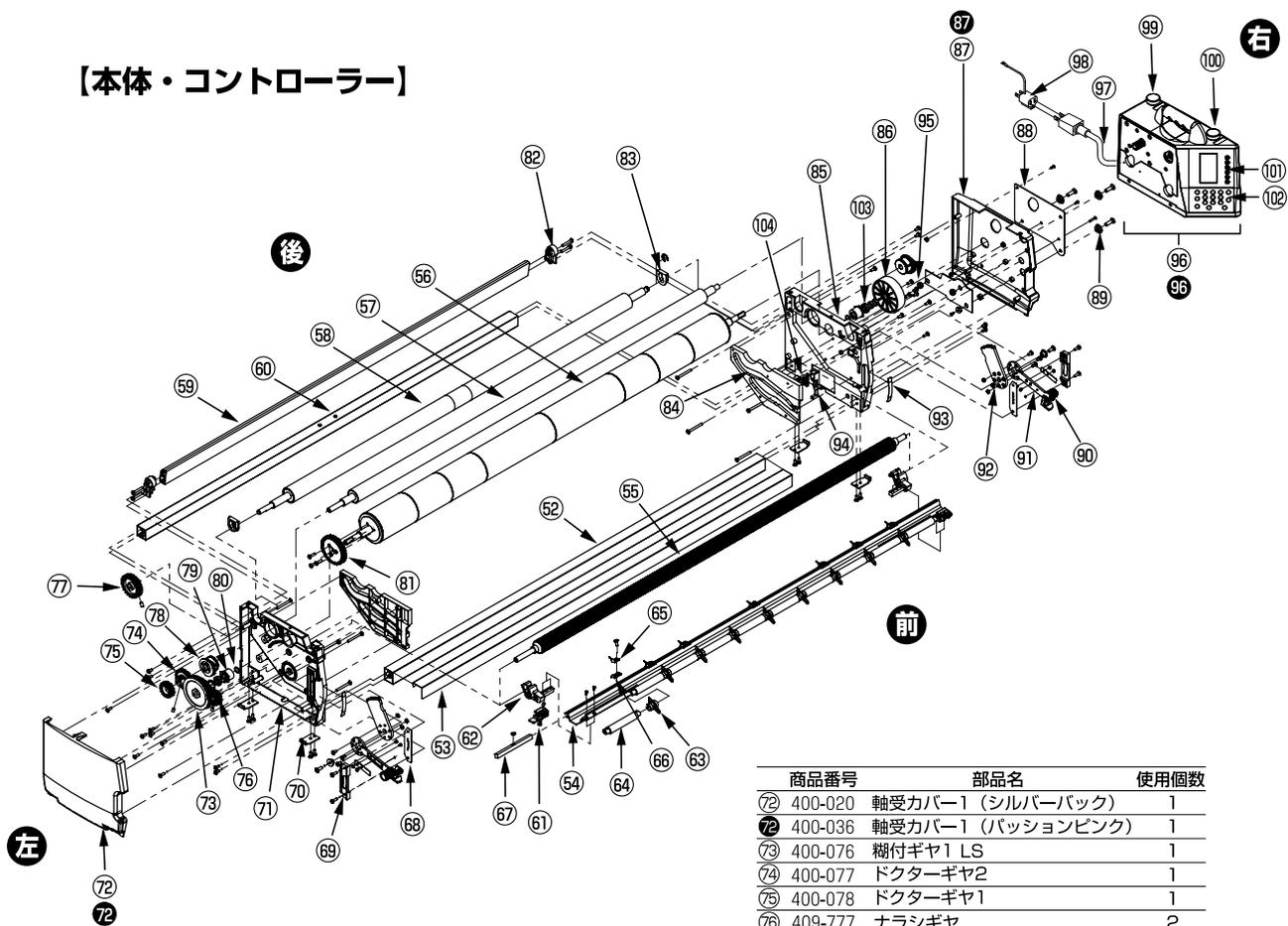
【糊タンク】

商品番号	部品名	使用個数
20	400-054 糊上げローラー LS	1
21	409-724 糊上げギヤ	1
22	400-055 糊止めパッキン LS	1
23	400-056 糊上げブラケット (左) LS	1
24	400-057 糊上げブラケット (右) LS	1
25	400-058 糊タンク本体 LS	1

※400-059糊タンクLS一式(㊸~㊾を組立てたものです。)
 ※400-092ノリアゲローラーセットLS(㊸~㊾を組立てたものです。)

※黒丸に白文字の番号「●」は、パッションピンク用部品です。

【本体・コントローラー】



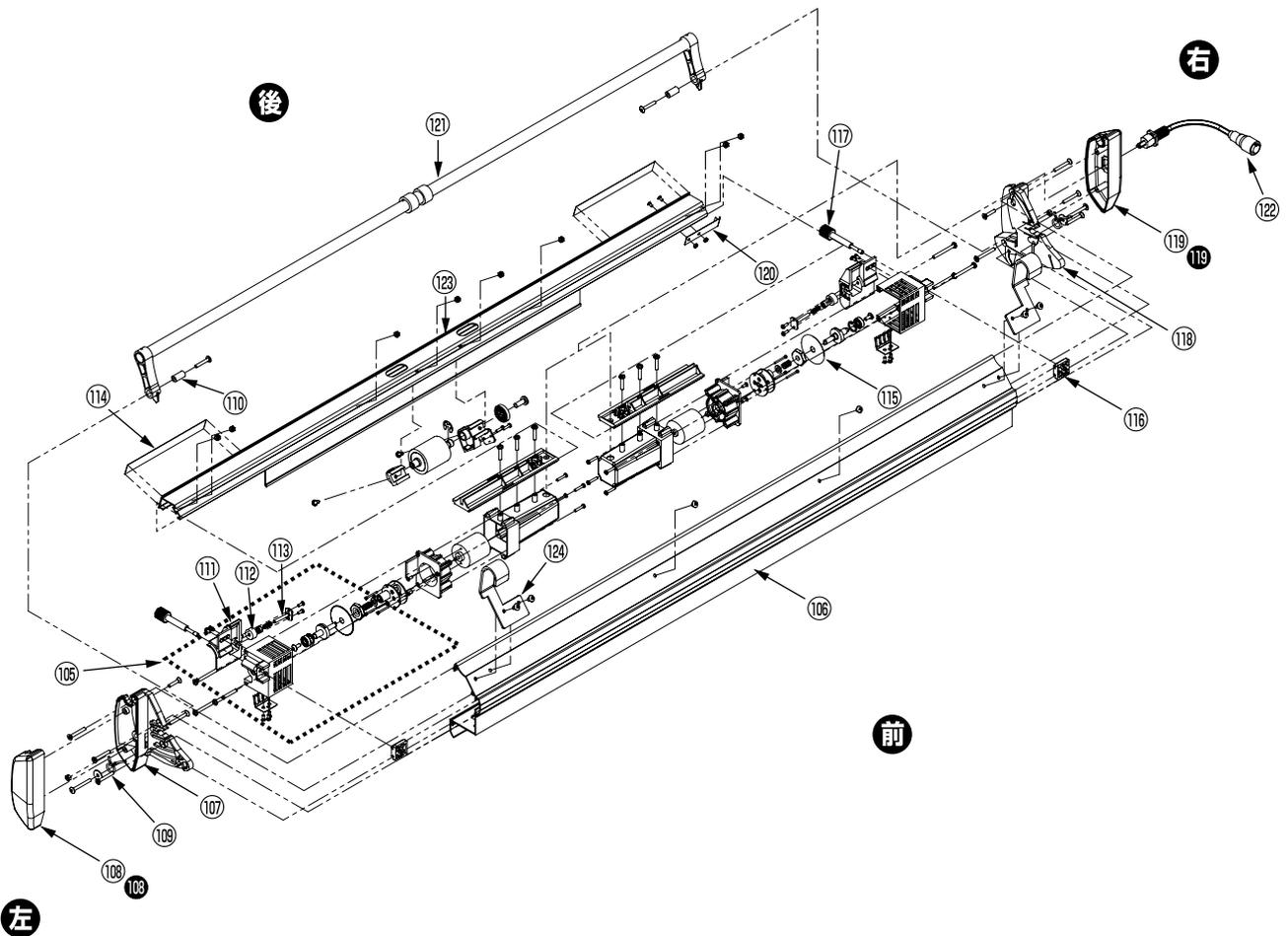
【本体・コントローラー】

商品番号	部品名	使用個数
⑤②	408-658 定規ステー	1
⑤③	408-659 カッター定規	1
⑤④	408-660 ツメステー	1
⑤⑤	400-071 ナラシローラー LS	1
⑤⑥	408-661 糊ローラー	1
⑤⑦	408-662 ドクターローラー	1
⑤⑧	409-758 オクリダシローラー	1
⑤⑨	400-072 丸バイブステー2 LS	1
⑥①	400-073 ベースステー LS	1
⑥②	409-761 糊タンクストッパー (左)	1
⑥③	409-762 糊タンクストッパー (右)	1
⑥④	408-663 ツメステーブラケット (左)	1
⑥⑤	408-664 ツメステーブラケット (右)	1
⑥⑥	400-473 ツメF LG	9
⑥⑦	408-666 ツメFスベサー	10
⑥⑧	409-766 ツメR	7
⑥⑨	409-767 ツメ固定具	7
⑦①	408-667 ツメRスベサー	10
⑦②	409-769 糊厚調整ブラケット1	2
⑦③	409-770 糊厚調整ブラケット2 (左)	1
⑦④	409-771 糊厚調整ブラケット2 (右)	1
⑦⑤	400-075 パチン錠フック	4
⑦⑥	400-019 軸受板1 (シルバー)	1

※408-022ツメステー一式(⑤②,⑤③)~⑦⑥を組立てたものです。

商品番号	部品名	使用個数
⑦⑦	400-020 軸受カバー1 (シルバーバック)	1
⑦⑧	400-036 軸受カバー1 (パッションピンク)	1
⑦⑨	400-076 糊付ギヤ1 LS	1
⑧①	400-077 ドクターギヤ2	1
⑧②	400-078 ドクターギヤ1	1
⑧③	409-777 ナラシギヤ	2
⑧④	409-779 オクリダシギヤ	1
⑧⑤	409-780 セクターギヤ (左)	1
⑧⑥	409-781 セクターギヤ (右)	1
⑧⑦	400-079 糊ローラーブッシュ LS	2
⑧⑧	409-783 Oリング	2
⑧⑨	409-784 糊付ギヤ2	1
⑧⑩	400-080 マルバイブステー補助台 (右)	1
⑧⑪	400-081 マルバイブステー補助台 (左)	1
⑧⑫	409-785 オクリダシローラーブラケット (左)	1
⑧⑬	409-786 オクリダシローラーブラケット (右)	1
⑧⑭	409-787 ガイドレール (左)	1
⑧⑮	400-082 ガイドレール (右)	1
⑧⑯	400-021 軸受板2 (シルバー)	1
⑧⑰	400-083 糊付ギヤ3 LS	1
⑧⑱	400-022 軸受カバー2 (シルバーバック)	1
⑧㉑	400-037 軸受カバー2 (パッションピンク)	1
⑧㉒	409-792 PCB補強板	1
⑧㉓	409-793 PCB止具	3
⑧㉔	408-612 糊厚ツマミ (ブラック)	2
⑧㉕	408-613 糊厚調整レバー (ツマミ付) (ブラック)	2
⑧㉖	409-796 糊厚調整ギヤ	2
⑧㉗	409-797 糊厚調整シール	2
⑧㉘	400-084 ノリオケSW用カム	1
⑧㉙	409-798 センサー基板取付キャップ	3
⑧㉚	400-451 LEXTAR dueコントローラー (シルバーバック)	1
⑧㉛	400-461 LEXTAR dueコントローラー (パッションピンク)	1
⑧㉜	400-318 電気ケーブル	1
⑧㉝	409-799 AC変換プラグアダプター	1
⑧㉞	409-800 割込SWキャップ	1
⑧㉟	409-801 ストップSWキャップ	1
⑧㊱	409-802 表示シート1	1
⑧㊲	409-803 表示シート2	1
⑧㊳	400-085 ノリローラーベアリング	1
⑧㊴	400-086 ノリオケSW	1

【スーパーナイフスリッター】



【スリッター】

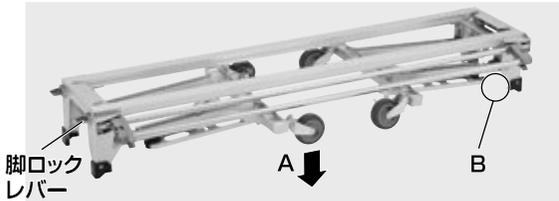
商品番号	部品名	使用個数
⑩⑤ 400-155	カッターボックスセット (左)	1
400-156	カッターボックスセット (右)	1
⑩⑥ 400-087	スリッターレール1 LS	1
⑩⑦ 400-088	軸受板5 LS	1
⑩⑧ 400-023	軸受カバー5 (シルバーバック)	1
● 400-038	軸受カバー5 (パッションピンク)	1
⑩⑨ 409-815	テンションバーバネ	2
⑩⑩ 409-817	スリッターテンションバー用ヒンジ管	2
⑩⑪ 400-160	耳切りガイド (左)	1
400-161	耳切りガイド (右)	1
⑩⑫ 409-820	研磨材	2
⑩⑬ 409-821	研磨軸	2
⑩⑭ 400-162	スケールプレート (左)・SP	1
400-163	スケールプレート (右)・SP	1

商品番号	部品名	使用個数
⑩⑮ 405-909	カッター	2
⑩⑯ 400-164	スライド固定具・SP	2
⑩⑰ 409-831	刃幅調整ツマミ	2
⑩⑱ 400-089	軸受板6 LS	1
⑩⑲ 400-024	軸受カバー6 (シルバーバック)	1
● 400-039	軸受カバー6 (パッションピンク)	1
⑩⑳ 400-167	静電防止金具2・SP	1
⑩㉑ 400-171	スリッターテンションバー・T	1
⑩㉒ 400-172	スリッター電源コード・T	1
⑩㉓ 400-471	スリッターレール2	1
⑩㉔ 400-090	スリッターフック (右) LS	1
400-091	スリッターフック (左) LS	1

※黒丸に白文字の番号「●」は、パッションピンク用部品です。

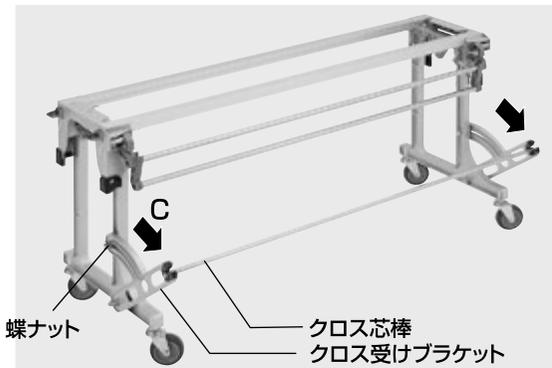
脚部の組立、テンションバーの取付

- ①脚ロックレバーを手で引き上げながらロックを外し、矢印Aの方向に開いてください。
(第1図参照)



第1図(脚部を折りたたんだ状態)

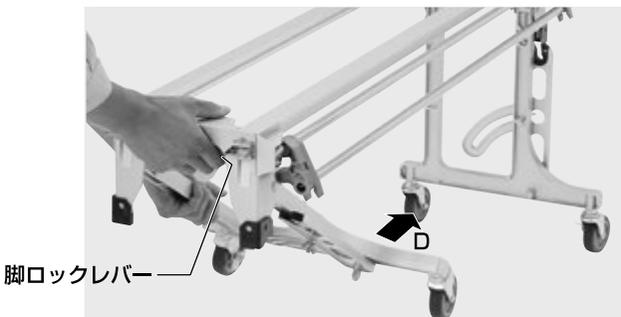
- ②蝶ナットを緩め、クロス受けブラケットを矢印Cの方向に倒し、蝶ナットを固定してください。(第2図参照)
③クロス芯棒を第2図のように設置してください。



第2図(脚部組立状態)

脚部の折りたたみ、収納

- 脚ロックレバーを手で引き上げながら、矢印Dの方向に脚を折たたみ、ロックさせてください。
(第3図参照)



第3図

⚠ 警告

脚を外に開くとき、第1図のB部(4カ所)に手をはさむ恐れがありますので、十分注意して行ってください。

⚠ 警告

脚ロックレバーを解除し、脚を外に開くときや閉じるときは、手をはさむ恐れがありますので十分注意して行ってください。

⚠ 警告

脚を開き組立てるときは、脚が確実にロックされていることを確認してください。ロックの状態が悪い場合、作業中、脚が倒れて、けがをする恐れがあります。また、脚を内側に折りたたみ収納する際、脚が確実にロックされていることを確認してください。

⚠ 注意

脚部組立の際、脚ロックレバーを解除しますと、脚部がフリーの状態になりますので、手や足などにケガをしないように注意してください。

メモ

クロス芯棒は、スリッターに収納できるようになっています。

⚠ 注意

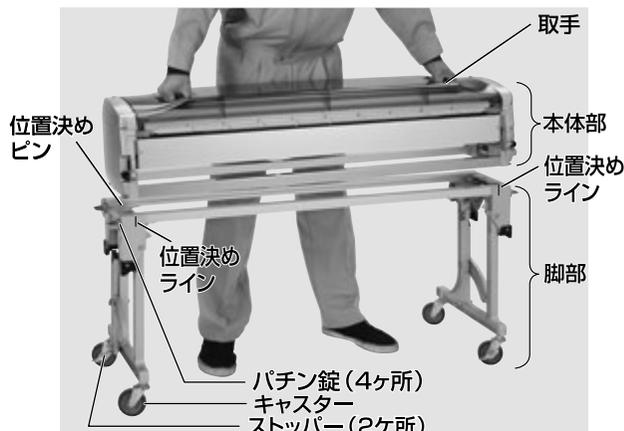
脚ロックレバーは握ったままの状態ですと、ロックはかかりません。ロックが解除されましたら、脚ロックレバーから手を離してください。組立・収納どちらの場合も同じです。

本体部の取付

- ①キャスターのストッパー（2ヶ所）を下に押し（ON位置）、ロックさせてください。
- ②機械本体を背面より持ち上げ、脚部の上に乗せてください。（第4図参照）
その際、脚部上部（左右2ヶ所）にある位置決めピンが本体下部（左右2ヶ所）にある位置決めU溝部（第5図参照）に入るようセットしてください。
- ③パチン錠（4ヶ所）で本体部と脚部を固定してください。

メモ

脚部前側・左右に位置決めラインがあります。本体・軸受板内側を位置決めラインに合わせるようにするとセットしやすくなります。



第4図

△ 注意

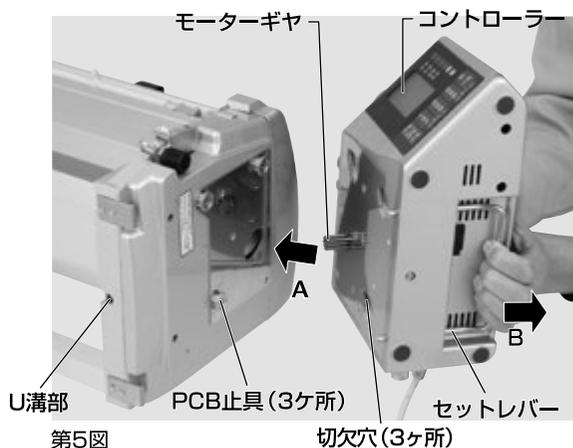
製品出荷時は、本体部と脚部を逆に取付けてありますので、正しい位置に取付け直してご使用ください。

△ 注意

本体部、脚部をパチン錠（4ヶ所）で確実に固定してください。

コントローラーの取付

- ①矢印Aの方向にコントローラーを持っていき、本体側面のPCB止具（3ヶ所）にコントローラー側の切欠穴（3ヶ所）を合わせてください。（第5図参照）
- ②セットレバー（コントローラー下部）を矢印Bの方向に引きながら、糊付けギヤ3とモーターギヤをかみ合わせた状態で斜め下向きにスライドさせ、コントローラーが完全に機械本体にロックされたところでセットレバーをはなしてください。コントローラーを上引っ張っても外れない状態が完全にロックされた状態です。



第5図

コントローラーの取り外し

コントローラーのセットレバーを矢印B方向に引きながら斜め上向きにスライドさせるとコントローラーは取り外せます。

△ 注意

安全の為にコントローラーは、本体から外すと動作しないようになっています。
故障ではありませんので本体にセットして動作確認してください。

△ 警告

コントローラーの着脱を行うときは、必ず電源を切ってください。誤って動き出すとけがをする恐れがあります。

△ 注意

機械本体にコントローラーが正しくセットされていないと、コントローラーを落下したり、ギヤが破損するなど故障の原因となることがあります。
また、運転中にセンサーエラーを表示したり、設定長さよりもクロスが長く出たり、動かなくなったりすることがあります。

スリッターの取付

- ①スリッターを機械本体の背面に取付ます。
スリッターフックをマルパイプステーの両サイドに引っ掛けスリッター軸受け板を本体の背面に入れます。(第6図、第7図参照)
- ②少し持ち上げた状態で奥まで入れロックがかかりますと収納時の位置になります。
(第8図参照) (出荷時はこの状態になっています)
- ③少し手前に引いてロックを外し、ゆっくり手前に引くとセット時の位置決め溝に当たります。その位置でスリッターを下方方向に押しとロックがかかり糊付時の状態にセットできます。(第9図、第10図、第11図参照)
- ④コントローラー背面のスリッター電源にスリッター電源コードを差し込みます。
(第12図参照)

⚠ 警告

スリッターの取付けを行うときは必ずコントローラーの電源を切ってください。誤って動き出すとけがをすることがあります。

⚠ 警告

スリッターを取付けるときに刃物で手を切らないように注意してください。

⚠ 注意

スリッター取付時、スリッターの上部、下部が左右とも確実に固定されていることを確認してください。固定が不十分な場合、スリッターが正常に動作しなかったり落下する恐れがあります。

⚠ 注意

スリッターを本体から取り外す際は、事前にスリッター電源コードをコントローラーから外してください。



第6図 スリッターフックをかけます。

第7図 スリッターフックを少し浮かせます。

第8図 奥まで入れてロックする。
(収納状態) (出荷状態)



第9図 ロックを外し外側へ開きます。

第10図 ゆっくり開きセットの位置で止めます。

第11図 下方へ押ししてセット完了します。



第12図

クロス原反のセット

- ①脚部の蝶ナットを緩め、クロス受けブラケットを手前に引き出し、蝶ナットを確実に締め込んでください。(第13図参照)
- ②クロス原反にクロス芯棒を通し、クロス側板で両側からはさみ込みます。
- ③クロス芯棒の溝部をクロス受けブラケットにはめ込みます。クロス受けブラケットとの間隔が左右同じとなるようにクロス原反を中央にセットし、クロス側板で両側から固定し、ネジで確実に固定してください。なお、クロス側板と原反はすき間がないように固定してください。



第13図

⚠ 警告

クロス原反にクロス芯棒を通す際、またクロス受けブラケットにセットする際等、手をはさんだり、原反を落下させ、けがをされないよう十分に注意してください。

⚠ 注意

クロス受けブラケットの蝶ナットは確実に締めつけてください。

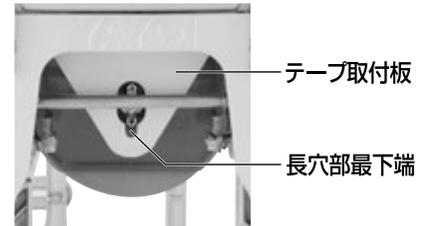
締まっていないと壁紙が蛇行する場合があります。

⚠ 注意

クロス原反を中央にセットし、スリッター裁断目盛を左右同じにしてもクロス原反の耳くずの幅が左右同じにならない場合は、クロス原反を耳くずの幅の狭い方へ少し移動してください。

<テープワンタッチ脱着機構>

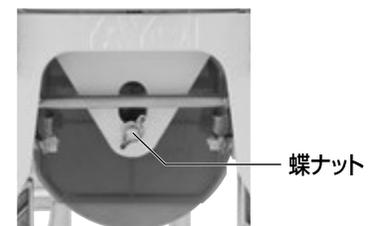
[脱着時の状態]



第I図



[装着時の状態]



第II図

⚠ 注意

テープ芯棒(ネジ部)をテープ取付板の長穴部最下端にセットし、蝶ナットを確実に閉め固定してください。

カットテープのセット

- ①カットテープの紙管内にテープ芯を入れた後、テープ芯の穴にテープ芯棒を通し、テープ側板で両側からはさみ込みます。
- ②テープ芯棒（ネジ部）をテープ取付板の長穴に差し込み、蝶ナットで確実に締め込みます。テープワンタッチ脱着機構によりカットテープの脱着が蝶ナットを付けたまま容易に行えます。（P14 第I図、第II図参照）
- ③テープガイドを糊タンク前面の所定位置の上から差し込んでください。（第14図参照）
- ④カットテープをテープナビゲーターの穴に通します。（第15図参照）
- ⑤テープナビゲーター先端部分より、ツメステータとノリオケの隙間から、ナラシローラーに沿わせて、入れていきます。（第16図、第17図参照）
- ⑥テープナビゲーターを引き出した後、カットテープを取出し、テープガイドに収めてセット完了です。（第14図、第18図参照）

⚠️メモ

テープナビゲーターはカットテープを本体にセットするのみに使用します。カットテープを本体にセットした後はテープナビゲーターをカットテープから外してください。また、糊付時にカットテープにテープナビゲーターがついていないことを確認してください。

⚠️注意

ナラシローラーのカットテープ通過部分に糊が付着している場合、必ず糊を拭き取ってからセットしてください。糊が付着しているとカットテープがナラシローラーに巻き込んだり、カットテープがクロスにダブついて付いたり曲がって付く場合があります。

⚠️注意

カットテープの種類によっては、巻きが太く、取付ける際、脚部に干渉する場合があります。

⚠️注意

脚部を折りたたむ場合は、テープ側板が脚部に干渉しないよう、テープ側板を縦方向にして下さい。

又、カットテープの巻きが太いと脚部を折りたたむ際、テープが脚部に干渉することがありますので、予め取り外しておいて下さい。無理に脚部を折りたたむとテープ側板やテープ取付板が破損します。

⚠️注意

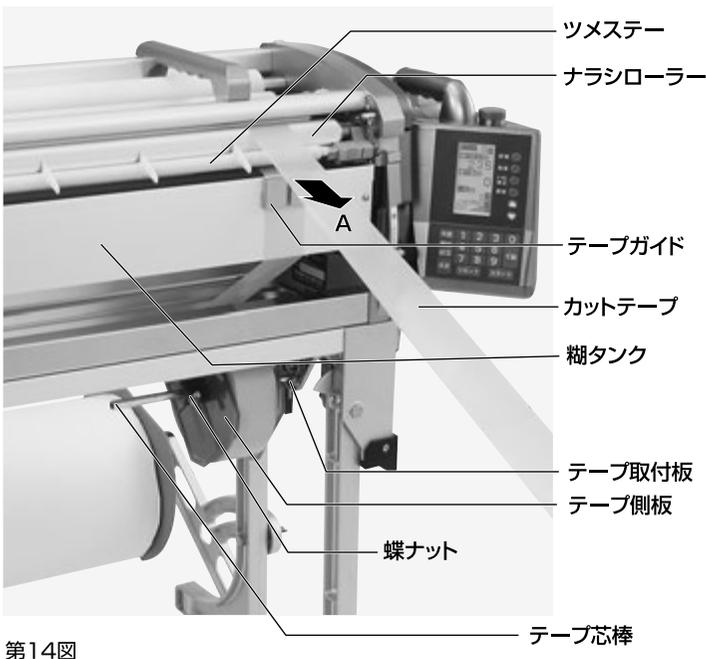
カットテープとテープ側板との間にすき間があると蛇行する恐れがあります。すき間の無いようにセットし固定してください。

⚠️メモ

カットテープのテンションはテープ側板のあて方で調整してください。

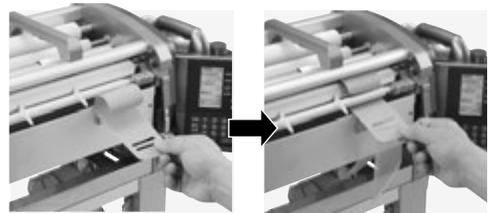
⚠️メモ

テープナビゲーターを使用すれば、カットテープや下敷テープをセットする際、ローラーやツメステータを取り外さず、上蓋を閉めた状態で簡単に装着できます。



第14図

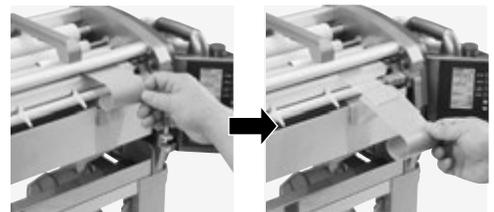
<テープナビゲーターの使用手順>



第15図



第16図



第17図

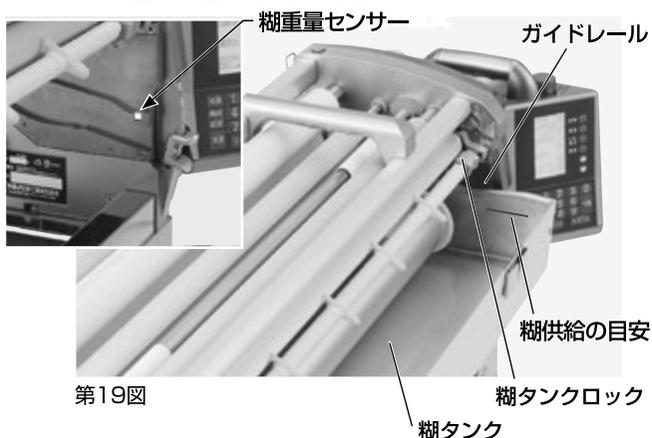


第18図

※テープナビゲーターの形状等が変形し、入れづらい場合は、手で形状等を直して使用してください。

糊の供給

- ①糊タンクロックを『開』の位置に移動させます。
- ②糊タンクを手前より僅かに持ち上げた後、ガイドレールに沿ってゆっくり引き出し(約7cm)、固定位置で止めてください。ガイドレールには、固定のくぼみがあります。(第19図参照)
- ③引き出した糊タンクの上から、糊を糊タンクの中全体に広がるように入れます。
- ④糊タンクを手前より僅かに持ち上げた後、ガイドレールに沿ってゆっくり押し込み所定の位置に固定してください。



糊厚の調整

本機正面の糊厚調整レバー(左右各1ヶ所)を上下することにより、糊ローラーとドクターローラーの間隔が変化しますので、最適な目盛位置にセットして糊厚ツマミを締めてご使用ください。尚、糊を入れ運転させながら行うと糊厚調整は容易です。(第20図参照)



△ 注意

糊厚調整レバーはラベルの目盛範囲内で動かすようにしてください。無理に動かしますと機械の故障原因となります。

△ 注意

ツメステーの両側に『糊タンクロック』が装備されています。『糊タンクロック』は運搬や移動の際、振動等により『糊タンク』が前面に出ないように事前にロックする機構です。

- ・糊タンクを引出す場合→(開)の位置に移動した後、糊タンクを引き出してください。
- ・運搬や移動をする場合→(閉)の位置に移動した後、運搬や移動してください。

△ 注意

糊を供給する際は、糊タンクをガイドレールの固定くぼみで止めて行ってください。糊タンクを引き出し過ぎると床に糊がタレたり、糊タンクが外れたりします。

△ 注意

接着剤の種類や希釈する際の水の添加量や希釈方法、希釈後の時間、あるいは気温等の環境条件等により接着剤の粘性が違います。最高スピードで運転しても糊があふれない程度に入れてご使用ください。入れすぎると糊が手前からあふれ出します。目安として、糊タンク両サイド内側のリブ以下になるよう糊を入れてください。

メモ

コントローラで糊重量センサーをONにすると、糊タンク内の糊量が少なくなるとE (Empty) の表示が点滅し、警報音で知らせる事ができます。(参照P25)

△ 注意

右側のガイドレールには重量センサーが付いています。糊等が付着しますと、重量センサーが作動しない恐れがあります。糊重量センサー、ガイドレール、糊タンク側面は常にきれいを状態を保ち、汚れた場合は水を含ませた雑巾等で拭き取って下さい。(第19図参照)

△ 注意

糊厚を絞った状態で、空運転しないでください。異音が発生したり、機械が故障する場合があります。

△ 注意

出荷時、糊厚が左右同じになるように調整しています。しかしながら、実際に糊付けした状態では、左右の糊付量に若干違いが発生する場合があります。その場合は糊付け状態を確認しながら、本書P29を参考に調整してください。

△ 注意

高粘性の接着剤を糊付けした場合、壁紙の種類によっては糊タンク内に糊が残存していても、糊切れを起したり、糊付有効m数が減少する場合があります。特に高粘性の接着剤で糊厚を絞り、糊付スピードを早くした場合、発生しやすくなります。その場合は、適度に粘性をゆるめたり、若干糊厚を増やしたり、あるいは糊付スピードをゆるやかにする等調整してください。

ツメ位置の調整

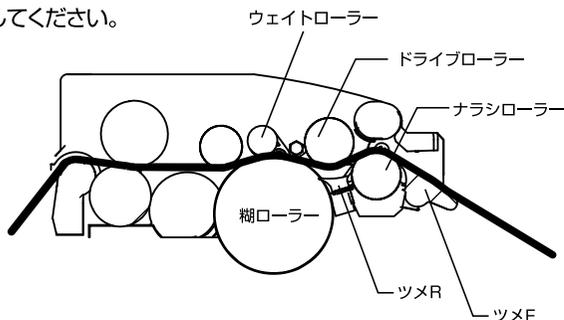
ツメの位置が悪いとクロス巻き込みや異音の原因となります。作業前に確認・調整を行ってください。

ツメR

ツメRは先端が糊ローラーの溝の底に少し触れる程度に調整してください。又、糊ローラーの縦溝(7本)に各々のツメRが溝から出ない位置にビスで固定してください。

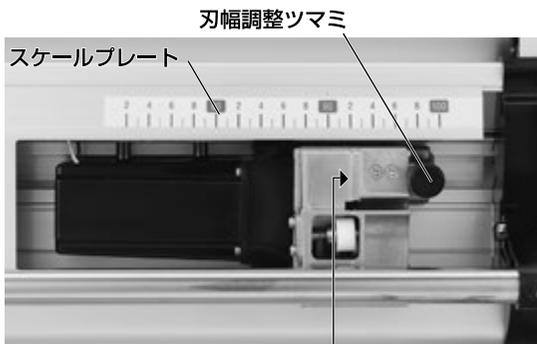
ツメF

ツメFはナラシローラーに触れない程度に手で回し調整してください。



裁断幅の調整

- ①スリッターの刃幅調整つまみ(左右各1ヶ所)を時計の針と逆方向に2回転ほど緩めるとカッターボックスを左右にスライドすることができます。
- ②カッターボックス内のAのラインがスリッターの刃の位置を示しています。Aのラインをスケールプレートの所要寸法位置にあわせ、Aのラインが左右のスケールプレートで同じ値にあることを確認して刃幅調整つまみを締めてください。(第21図参照)



第21図

Ⓐ

△ 注意

ツメの位置が悪いと、動作時、ツメがローラーに当たり、異音が発生する事があります。

△ 注意

壁紙の種類によって表装面が異なり、オサエローラーやドライブローラーの溝により表装面を押さえて異音が発生する事がありますが異常ではありません。

Ⓐメモ

ツメは消耗部品ですので、破損や磨耗が大きい場合、新しいものと交換してください。

※ツメF、ツメRは各2個予備として付属しています。

Ⓐメモ

ツメFを下方向に強く回すと、ツメステーよりツメFを取り外すことができます。また、新しいツメFを取付ける場合は、ツメステーに強く押し込んでください。

△ 警告

本製品は刃物に触れることがないように安全には配慮しておりますが、刃物で手を切ったりしないよう取扱いには十分に注意してください。

△ 警告

裁断幅の調整は必ずコントローラーの電源を切った状態、或いはスリッター電源コードをコントローラーから外した状態で行ってください。誤って動き出すとけがをする恐れがあります。

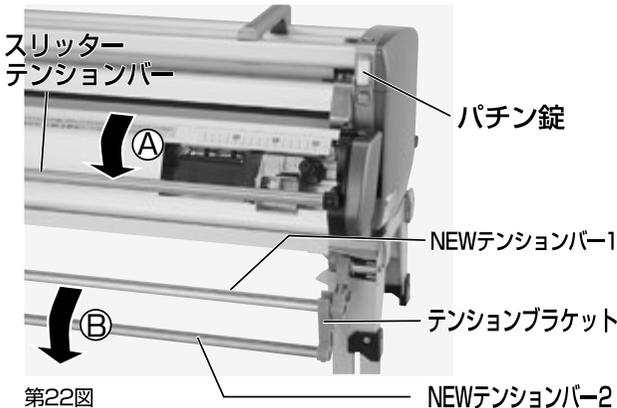
△ 注意

カッターボックスは壁紙裁断時、切りくずやほこりが排出しやすい構造になっています。しかしながら裁断状況により、カッターボックス内に切りくず等が蓄積した場合、切れ味が悪くなります。その場合、竹串等で内部部品を傷めないよう慎重に取り除いてください。その際、必ずコントローラーの電源を切るか、或いはスリッター電源コードをコントローラーから外してください。又、カッターボックスは分解しないでください。

クロスを通し方

糊タンク内に糊が入っている状態を確認してください。

- ①スリッターテンションバーを手前に引いておきます。(矢印A)
NEWテンションバー2は、NEWテンションバー1を押さえ込み左右のテンションブラケットのガイドピンを外し、開口部を広くします。(矢印B) (第22図参照)
- ②本体のパチン錠2ヶ所を外し、上部フレームを開けてください。
- ③コントローラーの電源をONにし、運転させると、スリッターの刃物が回転します。
- ④クロスを引き上げ、NEWテンションバー2、1、カッターボックス、本体部の順に通した後、運転を停止させます。カッターボックスにクロスを通す時は原反を足で押さえクロスが張った状態で通してください。(P19 第23図参照)
- ⑤スリッターテンションバーを矢印Cの方向に閉じた後、クロス of 耳を引き出します。(P19 第24図参照)
- ⑥原反を足で押さえながらクロスを手で引き、クロスが張った状態で上部フレームを閉じます。パチン錠2ヶ所を締めて確実にロックさせます。
- ⑦NEWテンションバー2を矢印Dの方向に持ち上げセットします。(P19 第24図参照)



⚠ 警告

本製品は刃物に触れることがないよう安全には配慮しておりますが、刃物で手を切ったりしないよう取扱いには十分注意してください。

⚠ 警告

運転中、ローラー、ギヤ等に手や衣類を巻き込まないように十分注意してください。

⚠ 警告

上部フレームを閉めるときは、手をはさまないよう十分注意してください。

⚠ 注意

NEWテンションバーにはバネが内蔵されており上へはね上がる構造になっています。

⚠ 注意

NEWテンションバー2を外す際は、NEWテンションバー1を押さえ込んで外してください。

⚠ 注意

壁紙の種類によっては、重い材料や材料強度の弱いものがあり、テンションバーをかけることにより壁紙が上らなったり、あるいは壁紙やテンションバー等を傷める場合があります。このような場合、予め試験使用し、状態によってはテンションバーの使用を避けてください。

⚠ 注意

スリッターでクロス of 耳を裁断時、クロス of セット方法が悪いとまっすぐ切れなかったり、切れ味が悪い場合があります。クロス原反の位置、スリッター of カッター of カッター位置を左右同じにセットします。カッターボックスにクロスを通す時は原反を足で押さえクロスを貼った状態で通してください。上部フレームを閉じる時も同様に原反を足で押さえクロスを手で引き、張った状態で閉じて機械にセットしてください。

⚠ メモ

壁紙の種類や状態によっては、耳裁ちの必要が無い場合があります。耳裁ちしない場合はスリッターを取り外すか、スリッターテンションバーを手前に引いてセットし、カッター部を通さず、スリッターテンションバーの手前にクロスを通します。

⚠ メモ

NEWテンションシステムにより、壁紙がセットしやすくなりました。(P19 第23図、第24図参照)

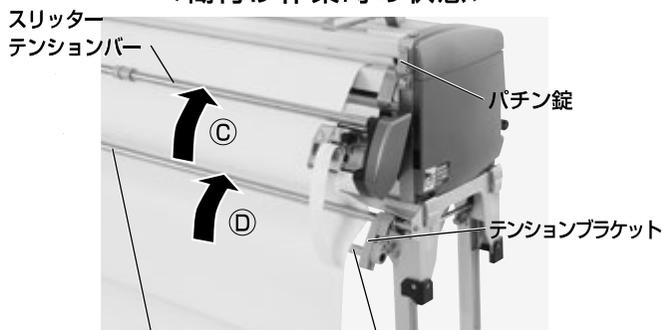
NEWテンションシステム

<クロスを挿入する時の状態>



第23図 NEWテンションバー2 NEWテンションバー1

<糊付け作業時の状態>



第24図 NEWテンションバー2 NEWテンションバー1

壁紙裏面検尺機構

スリッター背面中央上部に壁紙検尺車輪が付いています。壁紙の裏面の検尺を行うので壁紙の種類による寸法誤差が少なく正確な採寸を可能にしています。ピンチロールより原反側の位置で検知し機械を停止します。検尺機構の停止を検知し壁紙が無くなる前に機械を自動停止し最後の1枚まで有効に活用出来ます。糊付した壁紙が手前に落ちる心配がありません。

メモ

スリッターを取り外した場合、本体の検尺ローラーにて壁紙の検尺を行います。スリッターを外した状態での糊付作業も可能となっています。

注意

スリッター使用時糊付作業の際、壁紙によってはスリッターテンションバーの樹脂部で表面に跡の残る可能性が在ります。予め試験使用し状態によってはスリッターの使用を避けてください。

<使用方法>



壁紙を通してスリッターテンションバーを矢印方向へ閉じます。

注意

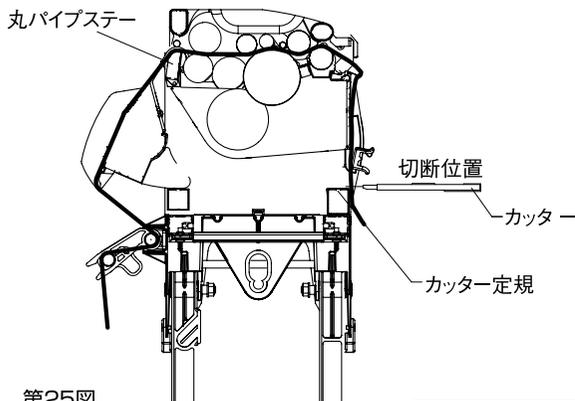
スリッターテンションバーを閉じていないと誤作動する恐れがあります。



セット完了です。
壁紙の端末が通過すると機械は停止します。

糊付け作業

- ①糊付け作業を始める際、操作パネルの寸動を使用し、クロスに糊がついている部分が切断位置より少し長めになるように送ってください。
- ②カッター定規に添わせてカッターを走らせ、長めに出したクロスをカットしてください。これでセット完了となります。
- ③操作パネルにて、クロスの長さ設定を行い本機を運転してください。操作パネルの使用方法はP21からP27をご覧ください。



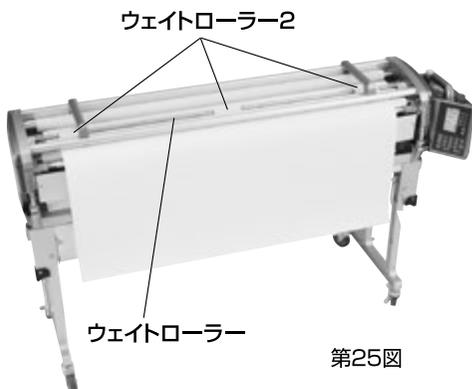
第25図

ウェイトローラー

壁紙両端の糊付不良を抑えます。

壁紙によっては糊を塗布すると極端に横延びする物があります。このような壁紙を機械にセットしたまま放置するとノリローラー手前でたわみが発生し、ノリローラーに密着せずに出てきます。結果、両端の一部に糊が付かない部分が発生します。

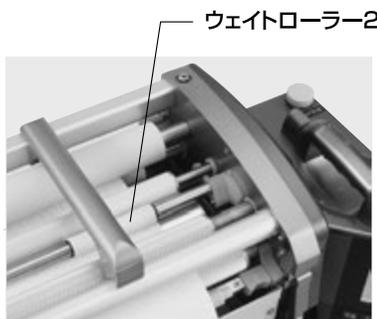
ウェイトローラーはたわんだ部分を強制的にノリローラーに密着させる機構です。(図25参照)



第25図

<使用方法>

壁紙をセットし、上蓋を閉じてください。壁紙両端と両サイドのウェイトローラー2の端面がほぼ同じになるように移動します。(図26参照)ウェイトローラーを奥に倒して(両端を持って倒してください)セット完了です。(図27参照)(上蓋を開けるとウェイトローラーは手前に移動します)



第26図



第27図

⚠ 警告

糊付け運転中、ローラー、ギヤ等に手や衣類を巻き込まれないよう十分注意してください。

⚠ 注意

カッターにて裁断する際、必ずカッター定規に沿わせて裁断してください。

💡メモ

本機は糊付けスピード、寸動スピードおよび割込運転スピードをそれぞれ任意に設定することができます。糊付けスピードは**スタート**を押しての運転中、あるいは運転していない時に、寸動スピードは**寸動**を押し続けての運転中に、割込運転スピードは割込スイッチで運転中に、それぞれ操作パネルの**全** **切** キーを押して好みのスピードに設定してください。

💡メモ

作業終了時、丸パイプステーにてクロスをカットすると便利です。

コントローラーの操作方法

6

操作スイッチ

割込スイッチ

壁紙をセットする場合や、カウントに関係しない運転をしたい場合に使用します。
一度押すとON、もう一度押すとOFFになります。

ストップ

非常停止のときに使用します。

ON・OFFスイッチ

コントローラーの電源をON/OFFします。



注意

コントローラーパネルのキースイッチ部分をカッター等の尖ったものや、ツメの先で押さないでください。故障の原因となります。



注意

コントローラーの表面についた糊などの汚れを落とすときは、固く絞った雑巾などで拭き取ってください。（スポンジで水拭きしないでください。）



注意

コントローラーは危険防止のため、本体から外すと動作しなくなります。本体にセットして動作確認を行ってください。



注意

液晶画面に異常があった場合や動作に異常があった場合は一度電源を切り、リセットボタンを押した状態で電源を入れてください。（オールクリア）
異常が修復できない場合はメーカーにご連絡ください。

操作パネル

画面切替

ボタンを押すと糊付画面の切替(通常↔詳細)、残量設定画面、トータル補正画面、履歴画面への切替えができます。



- ①スピードのUP、DOWN
- ②補正值の設定 (+、-)
- ③糊付履歴のスクロール

枚数

枚数設定時に使用します。

糊付設定

糊付け長さの設定を行うときに使用します。

決定

入力した糊付設定・枚数設定・残量設定・補正值設定を決定するときに使用します。

リセット

- ①糊付量の値を0にするときに使用します。
- ②入力した数値を0にするときに使用します。
- ③トータルをクリアするときに使用します。
- ④オールクリアするときに使用します。

スタート

糊付設定及び枚数設定後、運転するときに使用します。



0~9

- ①数字キー。設定値入力に使用します。
- ②カウントストップ機能のON/OFF切替時に使用します。

寸動

寸動(インチング)で動かしたいときに使用します。押し続けている間だけ動きます。

操作方法

電源コードをコンセントに差し込み、コントローラー背面にある電源スイッチ (ON/OFF) をONにすると、通常糊付画面になります。

通常糊付画面

- ① **糊付設定**を押します。背景が黒くなり入力待ち状態になります。
 - ② 糊付けしたい数字を入力し**決定**を押してください。押し間違えたときはリセットを押してください。(例:右図は235cmが入力してあります)
 - ③ **枚数**を押してください。背景が黒くなり入力待ち状態になります。
 - ④ 糊付けしたい枚数を入力し**決定**を押します。(例:右図は10枚が入力してあります。)
 - ⑤ **スタート**を押すと糊付けを開始します。糊付けが進むにつれ、糊付量がカウントされ235cmになった時点で、糊付けが停止します。
 - ⑥ 停止すると、枚数表示が9枚となります。リセットを押すと糊付量が0になります。
 - ⑦ この後⑤と⑥の作業を繰り返します。枚数が1枚ずつ減っていき、0になった時点で**スタート**押ししても機械は動かなくなります。
- 枚数に関係なく糊付する場合は**枚数**を押して、**リセット**もしくは**0**を入力し、**決定**を押してください。この後、**スタート**で糊付けし、設定値に達するとカウントが加算されます。



詳細糊付画面に切替ります。

残量設定画面に切替ります。

トータル・補正画面に切替ります。

履歴確認画面に切替ります。

スピードのUP・DOWNを行えます。

△注意

糊付設定を変更するときには**リセット**を押して糊付量表示を0cmにしてから行ってください。
糊付量表示値よりも大きい値を設定し**リセット**を押さずに**スタート**しますと、前回の糊付量表示値からのスタートになりますので、設定値よりも表示値分が短くなります

メモ

本機は糊付スピード、寸動スピードおよび割込運転スピードをそれぞれ任意に設定することができます。

④⑦ ボタンで**スピード**を設定してください。

糊付スピードは**スタート**を押しての運転中、あるいは運転していない時に設定します。

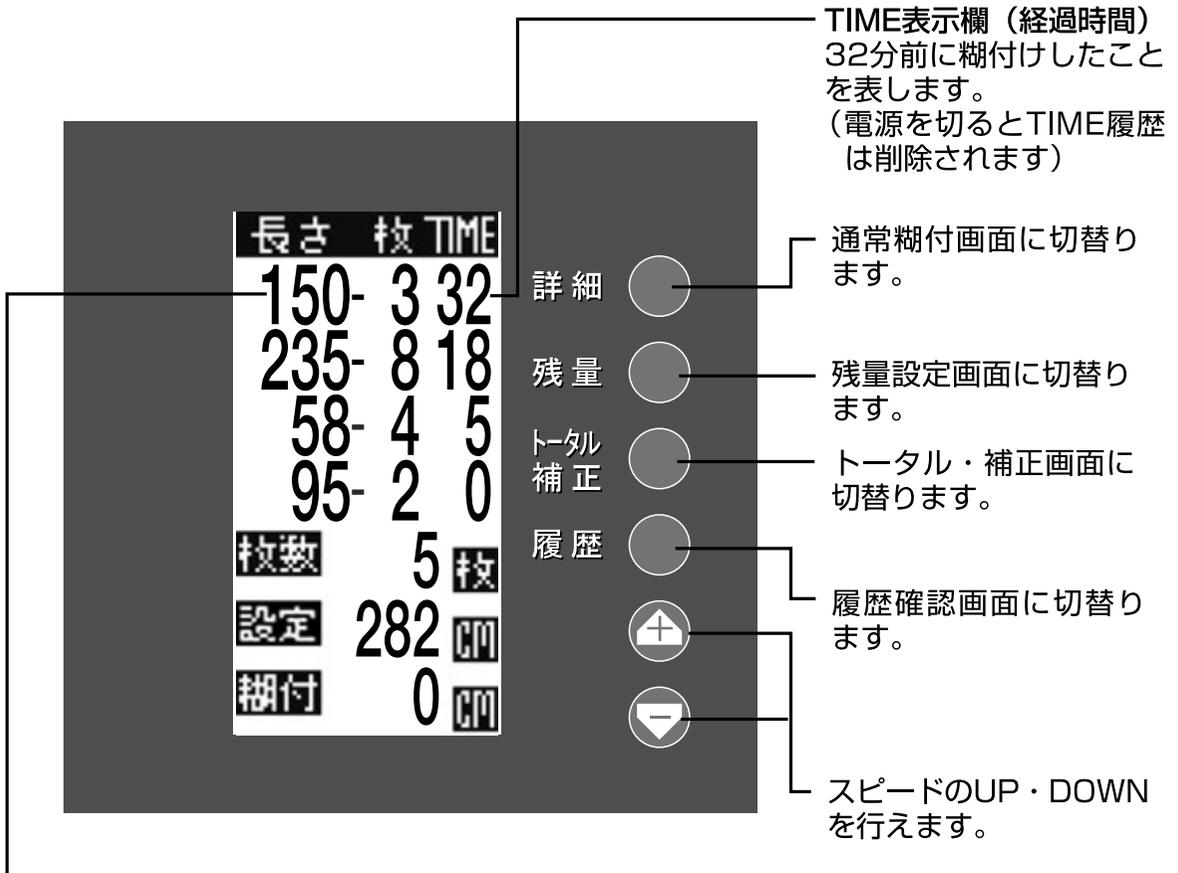
寸動スピードは**寸動**を押し続けて運転中に設定します。

割込運転スピードは割込スイッチで運転中に設定します。

画面下部 (SPEED部) に現在のスピードの目安が表示されます。(スピード調整範囲 3~20m/分)

詳細糊付画面

通常糊付画面で詳細キーを押すと、詳細糊付画面に切替ります。
糊付けの詳細が解り、糊付けした経過時間（分）を右側に表示します。
（糊付けの詳細は20件保存し、古いデータから削除されます）



詳細表示欄

150×3は150cmを3枚
糊付けしたことを表します。

メモ

詳細部分を見ながら糊付けが可能です。また、詳細糊付画面のTIMEは、直前に糊付した（95cmを2枚）時点から経過した時間（分）を表示（最大99分）します。
糊付けした壁紙のオープンタイムの確認等にご利用ください。

【残量設定】

・壁紙残量設定

壁紙の残量等予め設定値を入力し、設定値まで糊付を行うと警報音が鳴ります。画面上では残量バーが徐々に減って表示されます。

・糊タンク重量センサー設定

糊タンク内の残量を重量センサーが感知し少なくなると警報音が鳴り、糊付画面にE (Empty)が点滅表示されます。



設定方法

- 1 糊付画面の残量キーを押すと、残量設定画面に切替わります。
- 2 数字キーで残量設定値を入力します。(壁紙残量設定)
- 3 上下キーで下を押し糊重量センサーを設定します。
- 4 数字キー1で重量センサーON・数字キー2で重量センサーOFFになります。
- 5 決定キーを押すと通常糊付画面に切替わります。

△ 注意

重量センサーは粘度の違いや、糊付スピードの違いによって多少反応する重量が異なります。糊を供給する目安としてご使用ください。

設定解除

壁紙残量解除・・・0mを入力し決定キーを押す

△ 注意

壁紙残量センサーは設定値まで糊付すると警報音がなります。残量設定画面で設定の解除または再入力(決定)を行わないと糊付作業の度に警報音がなります。重量センサーは糊タンク内の糊量が少なくなると警報音が鳴ります。糊を投入するか残量設定画面でOFFにしないと、糊付作業の度にEのマークの点滅と警報音が鳴ります。製品出荷時は重量センサーは解除しています。機能ご使用の際は、ON状態に設定して下さい。

【トータル・補正画面】

1.補正機能

クロスの種類によって、多少設定長さに対して長く出たり、短く出たりすることがあります。

このような場合に、クロスの糊付け長さを割合で補正する機能です。



- 1 糊付画面でトータル補正キーを押すとトータル・補正画面に切替わります。
- 2 \oplus \ominus のキーで補正值を設定します。補正值は $-2.0\% \sim +2.0\%$ の範囲で0.5%毎に設定できます。
- 3 決定キーを押すと補正值が入力され、通常糊付画面に切替わります。液晶画面右側に補正值が+の場合は \oplus を、補正值が-の場合は \ominus を表示します。

補正機能の解除

補正の設定値を0.0%にして決定を押せば補正值は解除されます。

2.トータル機能

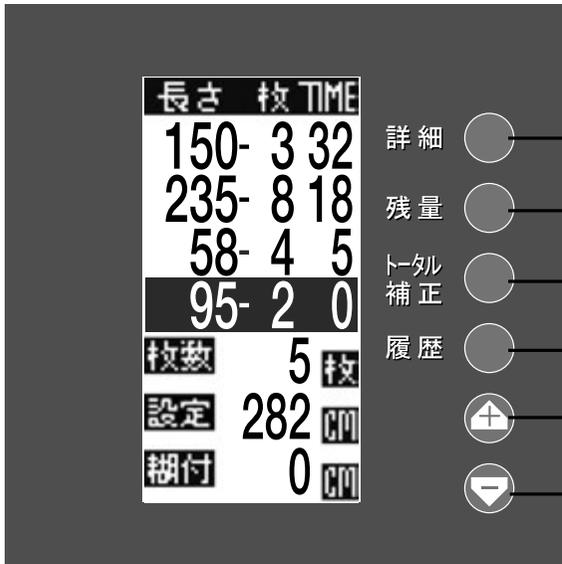
糊付量のトータルを通常糊付画面に表示できます。

トータル補正画面でリセットキーを押すとトータルをリセット(0)することができます。

履歴確認画面

糊付画面で履歴キーを押すと、履歴確認画面に切替わります。

  キーを操作する事で、糊付履歴をスクロールして確認する事ができます。



△ 注意

糊付けの詳細は20件保存し、古いデータから削除されます。また、電源を切るとTIME履歴は、削除され、横バーが表示されます。

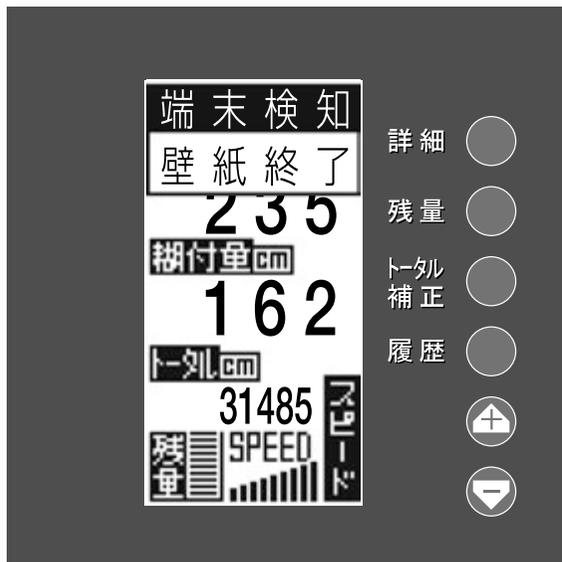
-  前の画面に戻ります。
-  残量設定画面に切替わります。
-  トータル・補正画面に切替わります。
-  前の画面に戻ります。
-  履歴をスクロールできます。

メモ

その他のキー(数字キー等)を押しても、元の画面に戻ります。

【端末検知機能】

糊付作業中に壁紙がなくなると端末(壁紙終了)を検知して自動停止し、糊付量のカウン트가ストップします。



【端末検知後の寸動ボタンによる運転】

壁紙の端末を検知した後に寸動ボタンのみによる運転が可能です。左記の画面表示後、寸動ボタンのみによる運転が可能です。寸動ボタンのみの運転を解除する場合はリセットボタンを押し新しい壁紙をセットし、スタートを押せば、糊付作業を再開できます。

△ 注意

実際の糊付量とカウント数では、誤差が生じます。

△ 注意

スリッターテンションバーが閉じていない状態で運転すると壁紙がセットされていても検尺車輪が回らず端末検知が発生します。必ずスリッターテンションバーを閉じて糊付作業を行ってください。

【エラー表示画面】

●入力電圧異常

起動時、電圧が70V以下もしくは130V以上の場合、左記エラー表示が点灯し、コントローラーは動作しません。適正な電圧で作業してください。

動作中に電圧低下があった場合は、エラー表示しますが、動作はします。

電圧が復旧するとエラー表示は消えます。

（ただし、スピードが遅くなる等の症状が出る場合があります）



●過負荷異常

ギヤ・ローラー等に噛み込みや巻き込み等があり、コントローラーのモーターに過負荷がかかった場合や、長時間運転時コントローラー内部の温度上昇により、保護のため左記エラー表示を点灯し、コントローラーを停止します。原因を取り取り除くかしばらくたってから再度作業してください。



●センサー読込異常

糊付け運転中、上部フレームのパチン錠が閉められていない場合やコントローラーが本体に正しくセットされていない場合、あるいはセンサー部分に異常があった場合に左記エラー表示が点灯します。



掃除・手入れの程度が機械の性能と寿命に大きく影響しますので、糊付作業が終われば以下の掃除及び手入れを行ってください。

本体部の掃除

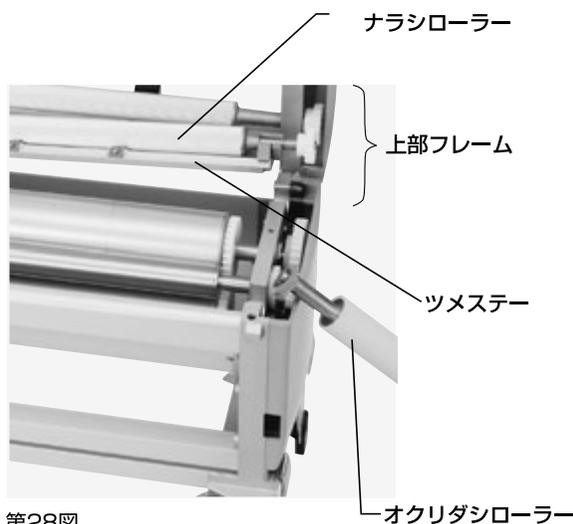
- ①機械本体を空運転させながら糊厚調整レバーを絞って糊ローラーとドクターローラー表面の糊を糊タンクに落とします。
- ②糊付機械を停止させた後、上部フレームを開き、コントローラー、スリッター、オクリダシローラー、ツメステー及びナラシローラーを機械本体より取り外してください。
(第28図参照)
- ③取り外したツメステー及びナラシローラーは、スポンジ等を使用して水洗いしてください。
- ④機械本体より糊タンクを完全に引き出し、糊タンクの中の糊を糊バケツに戻します。
※糊タンクを引き出す際に糊ローラーより糊が床に垂れることがありますので、予め床に養生しておいてください。
- ⑤糊タンクから糊上げローラーを外し（P29第29図参照）、スポンジ等を使用して糊上げローラーを水洗いしてください。この段階では、糊タンクは完全に洗浄せず、ゴムベラで掻き落せる分だけ糊を落します。
- ⑥糊上げローラーを外した状態で糊タンクを機械本体にセットします。
- ⑦手で糊ローラーを回転させながら、糊ローラー及びドクターローラーをスポンジ等で水洗いしてください。（P29第30図参照）
- ⑧再び機械本体から糊タンクを完全に引き出し、糊タンク内を洗浄します。

⚠ 警告

機械本体を洗浄するときは、コントローラー、スリッター及びオクリダシローラーを取りはずして行ってください。ローラーの間に手や衣類を巻き込んだり、スリッターの刃物で手を切ったりするなどの思わぬ事故を未然に防ぎます。

⚠ 注意

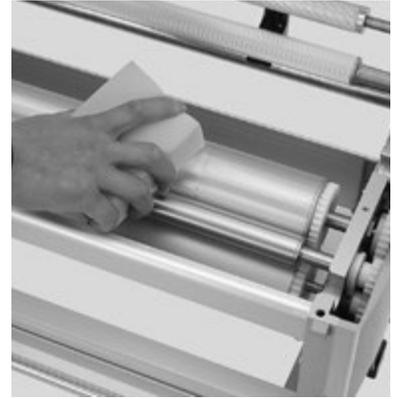
糊ローラー、ドクターローラー表面の糊は完全に除去してください。薄い膜状に糊が残っているだけで糊付け状態が悪くなる場合があります。又、オクリダシローラー、検尺ローラーについても糊が表面に残っていると、表面にひび割れを起こし、正常な運転をしなくなる恐れがあります。



第28図



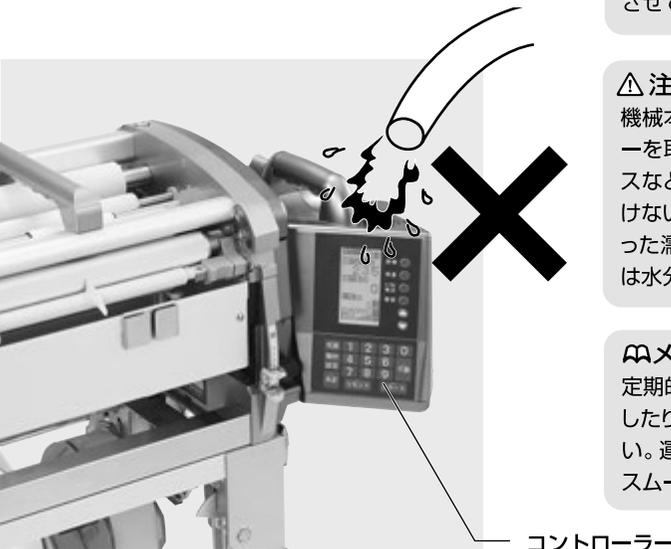
第29図



第30図

- ⑨ 糊上げローラーを糊タンクに取付け、機械本体にセットします。
- ⑩ スリッター、コントローラー、オクリダシローラー、ツメステー及びナラシローラーを機械本体に取付けてください。
- ⑪ 洗浄後、乾いた布等で水分をよく拭き取ってください。また、脚やフレーム等に付着した糊もきれいに拭き取ってください。

機械の手入れ



第31図

△ 注意

センサー基板の部分には水や糊をかけないようにして下さい。万一かかった場合は、雑巾などで拭き取り乾燥させてください。

△ 注意

機械本体を洗浄するときは、コントローラーとスリッターを取り外して行ってください。第31図のようにホースなどで水を直接コントローラーやスリッター等に掛けないようにしてください。汚れを落とすときは固く絞った濡れ雑巾をご使用ください。水が掛かった場合には水分をよく拭き取ってください。

メモ

定期的にローラーの軸受部やギヤ部にグリスを注入したり、ギヤの歯に固まってついた糊を落としてください。運転中の異音の発生を防ぐとともに、常に機械をスムーズに運転させることができます。

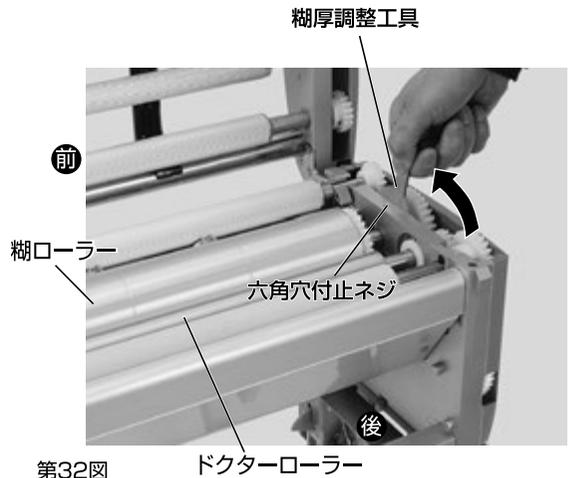
本機には、糊厚調整工具以外の工具は付属されていません。
 本機の調整点検には、ドライバー（+）、六角レンチ（3mm）、ボックスレンチ（10mm）等が必要ですので、事前に市販の工具（ドライバー、レンチ等）を準備してください。

1. 糊ローラーとドクターローラーのクリアランス調整

【糊が絞れないときの調整】

（糊付機械に糊が入っていない状態で行うと容易です。）

- ①左右とも糊厚調整レバーを目盛0の位置にあわせ、糊厚ツマミを締めます。
- ②左右とも六角穴付止ネジを六角レンチ（3mm）で緩めてください。
- ③第32図のように、糊付けギヤと軸受板の間にある糊ローラーブッシュ六角部に付属の糊厚調整工具をはめ込み、矢印の向きにゆっくり動かしてください。糊ローラーが移動します。
- ④ローラーを手で回しながら、糊ローラーとドクターローラーのすき間が0mmの位置で、六角穴付止ネジを確実に締め込んでください。



【左右で糊付量が違うときの調整】

（糊付機に糊を入れた状態で行うと容易です。）

例：左側を右側と同じ目盛にあわせる場合

- ①左右とも糊厚調整レバーを同じ目盛にして、糊厚ツマミを締めます。
- ②左側の六角穴付止ネジを緩めて、第32図のように糊厚調整工具を使って、糊ローラーを移動させます。
 ※矢印の向きに動かすと糊が絞れ、反対の向きに動かすと糊が多くつくようになります。
- ③割込みスイッチで運転させて、糊量を確認してください。
 ※壁紙等で実際に糊付け確認すると、より正確に調整できます。
- ④左右のバランスが同じになったら六角穴付止ネジを確実に締め込んでください。

⚠ 警告

コントローラーは取り外した状態で調整してください。

⚠ 注意

糊ローラーとドクターローラーは強く接触させないでください。接触させるとローラー表面が傷つき、糊付け状態が悪くなります。

⚠ 注意

左右の糊付状態を確認する時は、必ず上ブタを閉めてください。
 上ブタが開いていると、実際の糊付状態と異なる場合があります。

2. 検尺ローラーのピンチ圧調整

(クロスの蛇行調整・クロス原反があがらないとき)

クロスが蛇行する場合やクロス原反が上がらないときは、ボックスレンチ(10mm)又はスパナ(10mm)で本体軸受板(3、4)の六角ナットを緩めてからピンチ圧調整用バネ止メネジ(六角穴付)を六角レンチ(3mm)で回してピンチ圧を調整してください。(第33図参照)

【例】

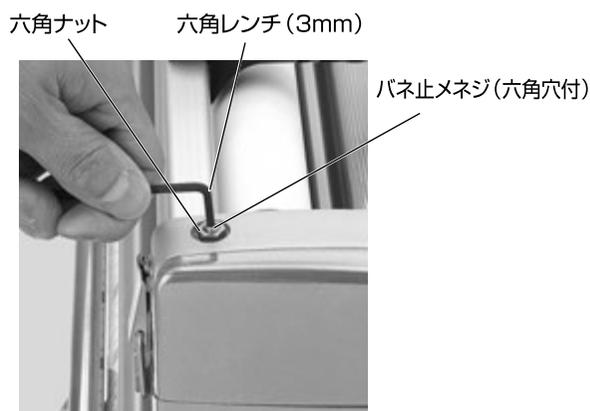
クロスが、糊付機械正面からみて左側に寄って出る場合

糊付機械正面からみて右側のピンチ圧調整用バネ止メネジ(六角穴付)を六角レンチで緩めてください(時計逆方向)。又は左側のピンチ圧調整用バネ止メネジ(六角穴付)を六角レンチで締めてください(時計方向)。又、上記調整はクロス(糊付けなし)を通して行うと容易に行えます。調整が終わったらボックスレンチ(又はスパナ)で六角ナットを締めてください。

メモ

締めすぎるとクロス糊付け長さは設定より若干長めに出るようになります。

また締めすぎ、緩めすぎてもクロス引き上げ能力が落ちます。



第33図

スリッター刃物の交換方法

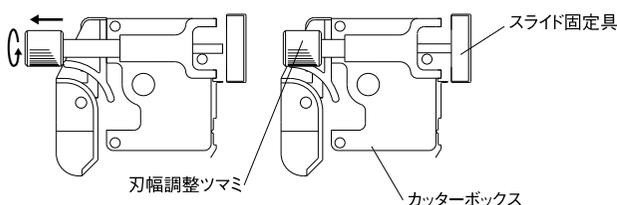
9

スリッターの刃物は、消耗品です。スリッターの切れ味が悪くなった場合刃物(カッターボックス)を交換してください。厳密に修理する場合は、一旦当社へスリッターを戻していただき、詳細な点検調整を行ってください。

スリッターの刃物の交換方法

1. カッターボックスの外し方

- ① スリッターを本体より外してください。
- ② 刃幅調節ツマミを時計の針と逆方向に回し、後ろのスライド固定具から外してください。(第34図参照)



第34図

警告

刃物を交換するときは必ずスリッターを本体から取り外して行ってください。

警告

本製品は刃物に触れることがないように安全には配慮しておりますが、刃物で手を切ったりしないよう取扱いには十分注意してください。

警告

カッターボックスを分解しないでください。手を切る恐れがあります。

注意

スリッターを本体より取り外す際は、事前にスリッター電源コードをコントローラーより外してください。

- ③ 軸受板内側より、軸受カバーを固定している皿ビス(左右・各2個)を(+ドライバー)で緩めて軸受カバーを外します。

(第35図参照)

- ④ スリッターレールを固定する皿ビス(左右・各4個)を(+ドライバー)で緩めて外します。

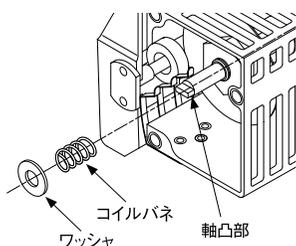
(第36図参照)

- ⑤ 第37図のように軸受板を回転させた後、カッターボックスを固定しているナベビス3個を(+ドライバー)で緩めてカッターボックスを取り外してください。

※第38図は、完全にカッターボックスを取り外した状態

2.カッターボックスの取り付け方

- ① カッターボックスの軸にコイルバネ、ワッシャーを順にはめてください。(第39図参照)



第39図

- ② カッターボックスをスリッターモーター部に取り付けます。カッターボックスの軸をスリッターモーター部の受け穴にはめ込みます。(軸の凸部を穴の溝にはめ込む)。

この時、(+ドライバー)で軸を少しずつ回しますと、確実にはめることができます。

- ③ ナベビス3個を締めて、カッターボックスをスリッターモーター部に固定します。

- ④ 軸受板を元の位置に戻し、皿ビス(左右各4個)を締めてスリッターレールと軸受板を固定します。

- ⑤ 皿ビス(左右各2個)を締めて軸受カバーを軸受板に取り付けます。

- ⑥ スライド固定具を動かし、刃幅調整ツマミの後ろに合わせ、締め付けてください。

△注意

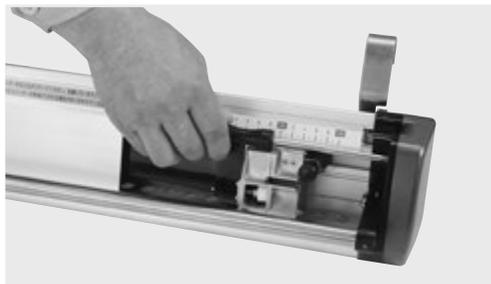
セラミッククロス、無機質クロス等、壁紙の種類によっては、極端に刃物を傷めますので注意してください。

メモ

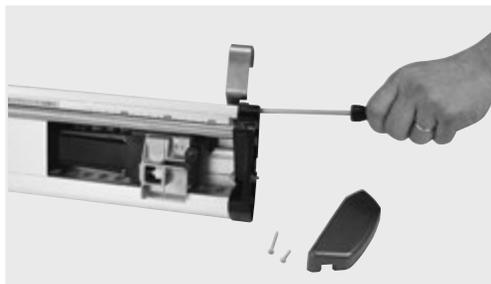
スリッターの刃物は、3分間程度空回ししますと切れ味がよくなる場合があります。

△注意

右側(コントローラー側)の軸受カバーを外す際、スリッター電源用コードを傷めないよう注意してください。



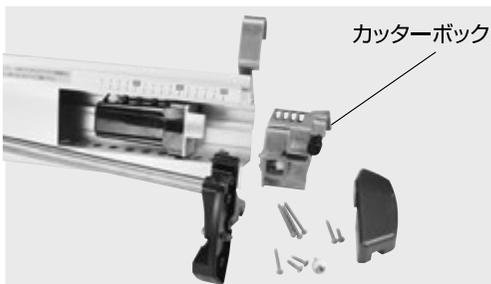
第35図



第36図



第37図



第38図

故障だと思われる前に

10

本機に異常が生じた場合は、次の手順に従ってチェックしてください。

コントローラーの画面が表示されない

電源プラグが差し込まれているか
電源スイッチはONになっているか

NO

電源ON

YES

他の電気製品は正常に作動するか

NO

停電または電気がきていない

YES

オールクリアしても症状がかわらない

YES

メーカーに連絡

△注意

電圧低下、電圧変動、ノイズ等によりコントローラーが正常に動作しない場合がありますのでご注意ください。

モーターが動かない

コントローラーが本体に正しく取付けられているか

NO

本体にコントローラーを正しくセットする

枚数表示が0になっていないか

YES

枚数設定を行う

YES

壁紙終了の表示がでている(P26参照)

YES

壁紙をセットする

NO

入力電圧異常の表示が出ている(P27参照)

YES

電源状態を確認する

NO

過負荷異常の表示が出ている(P27参照)

YES

エラーの原因となるものを取り除くか、しばらくたってから動作させる

NO

STOPスイッチが下がった状態になっている

YES

スイッチキャップを引上げ、掃除する

NO

オールクリアしても症状が変わらない

YES

メーカーに連絡

△注意

オールクリアはリセットボタンを押しながら電源を入れてください。(P21参照)

糊付量表示がカウントしない センサー読み異常の表示が出ている(P27参照)

コントローラーが本体に正しく取付けられているか

NO

本体にコントローラーを正しくセットする

上部フレームのパチン錠は確実に締まっているか

NO

パチン錠を締める

YES

オクリダシローラーが本体に正しく取り付けられているか

NO

本体にオクリダシローラーを正しくセットする

YES

本体のセンサーケーブル(基板部)に糊や水などがついていないか

YES

拭きとり乾燥させる

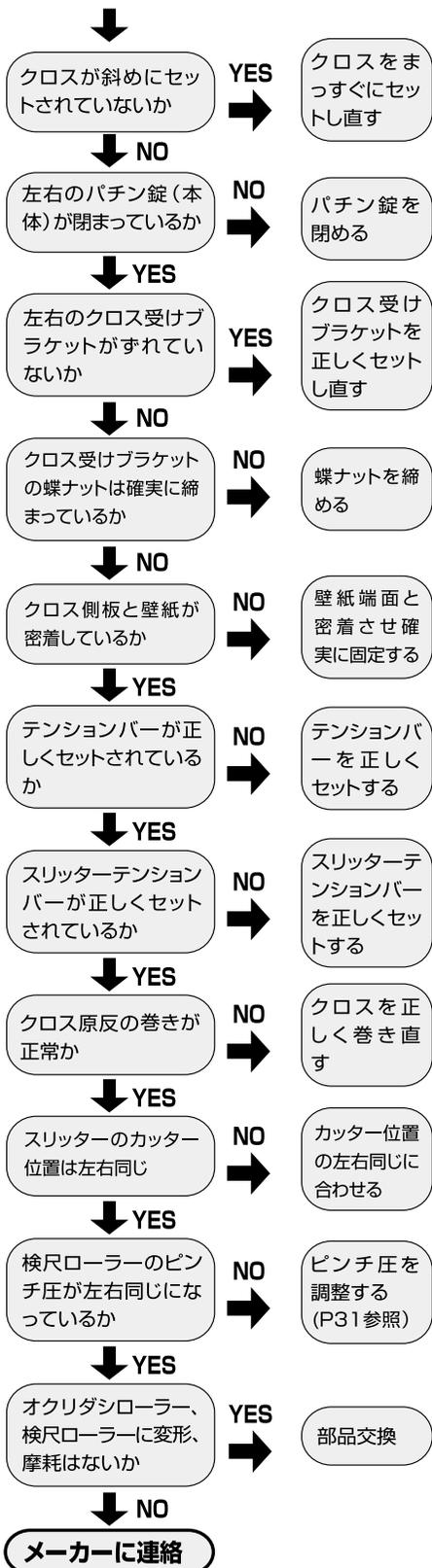
NO

オールクリアしても症状がかわらない

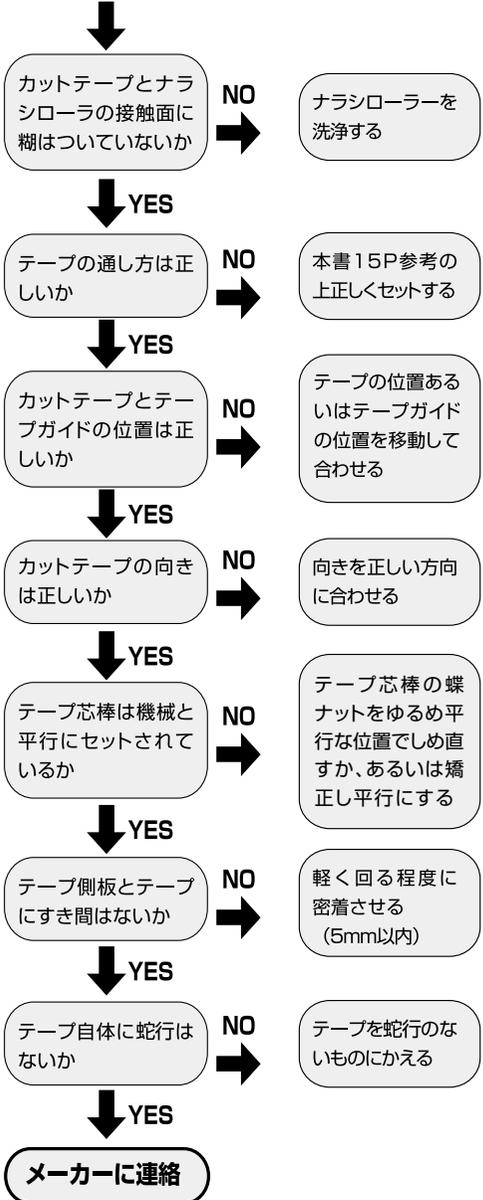
YES

メーカーに連絡

クロスにしわが発生する クロスが蛇行する



カッターテープが蛇行する だぶつく





404-955 NEWコントローラー収納ボックス
 ※中仕切り付の高強度コントローラー収納ボックス

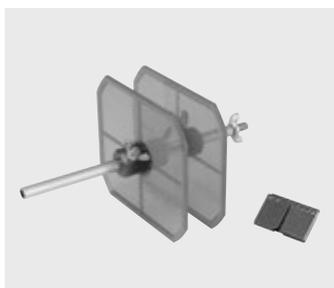


404-954 ライトボックス
 ※軽量タイプのコントローラー収納ボックス

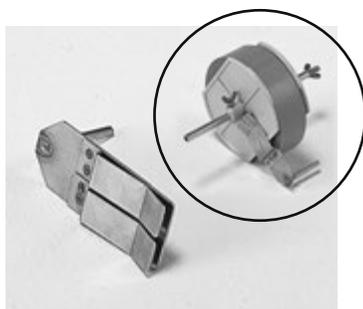


408-670 テープガイド38mm巾
408-671 テープガイド45mm巾

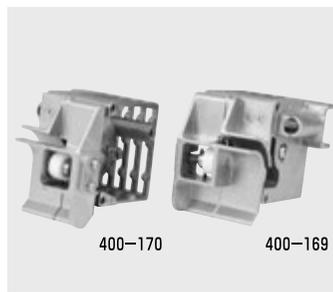
※コントローラーや付属品の収納、運搬に最適です。



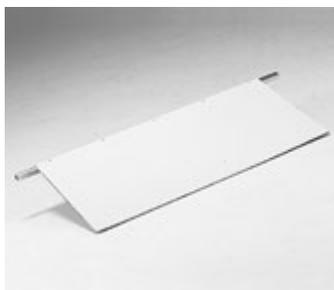
400-168
ワンタッチカットテープ取付キット・SP



405-804 テープテンションブラケット
 ※カットテープの蛇行を抑えます。



400-169
カッターボックスセット(左) SP・リサイクル
400-170
カッターボックスセット(右) SP・リサイクル



405-806 クロス受け板



404-918 NEWカバーシート
 ※現場のほこりをかぶらず、糊の乾燥防止にもなります。



409-840 φ100mmキャスター(ストッパー有)
409-841 φ100mmキャスター(ストッパー無)
 ※薄型スパナ(19×21mm)を使用し、標準キャスター(φ75mm)と交換できます。

●本体

(本体カバー、クロス芯棒、テンションバー、付属品の重量は含んでおりません)

重 量	25.1kg (本体部 18.4kg 脚部 6.7kg)
寸 法	全幅 1,180mm (コントローラー装着時 1,283mm)
	奥行 400mm (本体部 255mm)
	全高 813mm (脚折りたたみ時 423mm)
有効糊付幅	1,010mm
糊タンク容量	約12.5リットル

●スリッター

重 量	3.9kg
寸 法	全幅 1,190mm
	奥行 130mm
	全高 200mm
有効裁断幅	720～970mm
電 源	コントローラーから供給
出 力	20W

●コントローラー

重 量	2.9kg
電 源	AC100V 50Hz/60Hz
出 力	33W (最大180W)
消費電力	220W
糊付スピード	3～20m/分
使用温度範囲	0～40℃

※製品内容・仕様は改良等のため、予告なしに変更することがありますので、
予めご了承ください。

 ヤヨイ化学工業株式会社

本 社 〒939-1272 富山県高岡市下麻生4649 TEL(0766)36-2800(代)

フリーダイヤル：0120-303-841